

(様式第10)

自 医 病 総 第 95 号
令 和 7 年 10 月 3 日
学校法人自治医科大学
理事長 大石 利雄

厚生労働大臣 殿

開設者名

自治医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目6番3号
氏名	学校法人 自治医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

自治医科大学附属病院

3 所在の場所

〒329-0498
電話 (0285)44-2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
○	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科	○	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
上記のほか、血液科、内分泌代謝科、臨床腫瘍科、感染症科、緩和ケア科として医療を提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
上記のほか、乳腺科、腎臓外科、移植外科として医療を提供している。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						無	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	美容外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
53	1	0	0	1,052	1,106

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	698	368	730.5
歯科医師	22	47	23.7
薬剤師	103	1	103.5
保健師	1	0	1
助産師	70	1	70.8
看護師	1,357	26	1,378
准看護師			0
歯科衛生士	11	0	11
管理栄養士	32	0	32

職種	員数
看護補助者	9
理学療法士	32
作業療法士	11
視能訓練士	8
義肢装具士	
臨床工学士	32
栄養士	18
歯科技工士	2
診療放射線技師	90

職種	員数
診療エックス線技師	
臨床検査技師	122
衛生検査技師	
その他	
あん摩マッサージ指圧師	
医療社会事業従事者	16
その他の技術員	25
事務職員	207
その他の職員	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	89	眼科専門医	9
外科専門医	66	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	6	放射線科専門医	22
小児科専門医	45	脳神経外科専門医	17
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	21
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	22
産婦人科専門医	26	救急科専門医	10
		合計	361

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (川合 謙介) 任命年月日 令和 4 年 4 月 1 日
令和4年4月～ 医療の質向上・安全推進委員会、QSマネージャー会議、自治医科大学附属病院医療安全管理委員会等の医療安全管理に係る会議のオブザーバーとして活動。
令和4年7月～令和5年3月 毎月1～2回程度、令和5年10月～ 2ヵ月に1回程度、医療安全等に関する院内ラウンドを実施。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	837 人	11 人	848 人
1日当たり平均外来患者数	2,355 人	142 人	2,497 人
1日当たり平均調剤数	1,875		剤
必要医師数	223		人
必要歯科医師数	9		人
必要薬剤師数	29		人
必要(准)看護師数	513		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	3,390.39 m ²	鉄筋造 鉄筋コンクリート造	病床数	34 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	587.55	m ²	病床数	8 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	85	m ²		
	[共用室の場合]	共用する室名	DI・TDM室			
化学検査室	214 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動血液ガス分析装置、自動免疫測定装置、自動細胞解析装置、血小板凝集装置等		
細菌検査室	92 m ²	〃	(主な設備)	電気泳動装置等		
病理検査室	1,208.57 m ²	〃	(主な設備)	感染防止対策用解剖台、ラミナーフローユニット、腎生検イメージングシステム、染色装置用コントロールシステム等		
病理解剖室	322.4 m ²	〃	(主な設備)	解剖台、マイクロカッティングマシン		
研究室	16,460 m ²	〃	(主な設備)	机、PC、コピー機、書棚 等		
講義室	400 m ²	〃	室数	2 室	収容定員	130×2 人
図書室	3,678 m ²	〃	室数	室	蔵書数	217,932 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.1	%	逆紹介率	86.1	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数			22,583 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			24,882 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			2,573 人	
	D: 初診の患者の数			28,896 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
尾澤 巖	地方独立行政法人 栃 木県立がんセンター 理事長／センター長	○	医療機関の管理者として、広い識見その他の学術経験を有し、医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1
内山 聖	学校法人 悠久崇徳学 園 副理事長		医療機関の管理者を歴 任し、広い識見を有し、 医療に係る安全管理に 関する識見を有するた め	無	1
山口 育子	認定NPO法人 ささえ あい医療人権センター COML 理事長		患者団体の理事長として、医療を受ける立場から当院へ意見できる識見を有するため	無	2
大槻 マミ太郎	自治医科大学 副学長		学校法人自治医科大学副学長として医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1
齊藤 正昭	自治医科大学附属さい たま医療センター 医療安全管理室 室長		附属さいたま医療センター医療安全管理室長として医療安全管理部門に所属し、医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	145人
子宮内膜擦過術	21人
子宮内膜受容能検査1	13人
子宮内細菌叢検査1	16人
膜構造を用いた生理学的精子選択術	0人
ヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術	0人
抗ネオセルフβ2グリコプロテインI複合体抗体検査	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	7
取扱い患者数の合計(人)	195人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0人
ゲムシタビン静脈内投与、ナブーパクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法	0人
遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法	2人
反復経頭蓋磁気刺激療法	4人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	4
扱い患者数の合計(人)	6人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	サルコイドーシス	117
2	筋萎縮性側索硬化症	48	57	特発性間質性肺炎	36
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肺動脈性肺高血圧症	214
4	原発性側索硬化症	2	59	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
5	進行性核上性麻痺	15	60	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	13
6	パーキンソン病	215	61	リンパ脈管筋腫症	8
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	バッド・キアリ症候群	3
8	ハンチントン病	4	63	特発性門脈圧亢進症	2
9	シャルコー・マリー・トゥース病	8	64	原発性胆汁性胆管炎	83
10	重症筋無力症	122	65	原発性硬化性胆管炎	22
11	多発性硬化症／視神経脊髄炎	119	66	自己免疫性肝炎	308
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／ 多巣性運動ニューロパチー	40	67	クローン病	360
13	封入体筋炎	8	68	潰瘍性大腸炎	347
14	多系統萎縮症	25	69	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	62	70	若年性特発性関節炎	30
16	副腎白質ジストロフィー	3	71	ブラウ症候群	1
17	ミトコンドリア病	17	72	先天性ミオパチー	5
18	もやもや病	47	73	筋ジストロフィー	9
19	プリオン病	1	74	アトピー性脊髄炎	1
20	亜急性硬化性全脳炎	1	75	脊髄空洞症	10
21	全身性アミロイドーシス	5	76	脊髄髄膜瘤	22
22	神経線維腫症	4	77	アイザックス症候群	1
23	天疱瘡	2	78	ビッカーstaff脳幹脳炎	1
24	膿疱性乾癬(汎発型)	6	79	痙攣重積型(二相性)急性脳症	3
25	高安動脈炎	24	80	アレキサンダー病	1
26	結節性多発動脈炎	14	81	アイカルディ症候群	1
27	顕微鏡的多発血管炎	80	82	先天性大脳白質形成不全症	2
28	多発血管炎性肉芽腫症	47	83	ドラベ症候群	6
29	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	50	84	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	2
30	悪性関節リウマチ	8	85	レノックス・ガストー症候群	24
31	バージャー病	4	86	ウエスト症候群	4
32	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	87	ラスムッセン脳炎	1
33	全身性エリテマトーデス	755	88	レット症候群	4
34	皮膚筋炎／多発性筋炎	233	89	結節性硬化症	20
35	全身性強皮症	59	90	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
36	混合性結合組織病	109	91	特発性後天性全身性無汗症	1
37	シェーグレン症候群	339	92	眼皮膚白皮症	1
38	成人発症ステル病	3	93	マルファン症候群／ロイス・ディーツ症候群	15
39	再発性多発軟骨炎	14	94	メンケス病	3
40	ベーチェット病	78	95	低ホスファターゼ症	2
41	特発性拡張型心筋症	35	96	クルーゾン症候群	2
42	肥大型心筋症	19	97	アペール症候群	2
43	拘束型心筋症	1	98	ファイファー症候群	3
44	再生不良性貧血	64	99	歌舞伎症候群	1
45	自己免疫性溶血性貧血	29	100	多脾症候群	12
46	発作性夜間ヘモグロビン尿症	17	101	無脾症候群	3
47	血栓性血小板減少性紫斑病	8	102	コケイン症候群	1
48	原発性免疫不全症候群	13	103	ソトス症候群	4
49	黄色靱帯骨化症	4	104	ヌーナン症候群	5
50	後縦靱帯骨化症	15	105	ヤング・シンプソン症候群	1
51	広範脊柱管狭窄症	11	106	アンジェルマン症候群	3
52	クッシング病	3	107	エマヌエル症候群	3
53	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	4	108	総動脈幹遺残症	2
54	先天性副腎低形成症	2	109	完全大血管転位症	8
55	アジソン病	3	110	単心室症	29

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

	疾 患 名	患者数
111	左心低形成症候群	19
112	三尖弁閉鎖症	21
113	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1
114	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	4
115	ファロー四徴症	66
116	両大血管右室起始症	56
117	エプスタイン病	9
118	アルポート症候群	4
119	急速進行性糸球体腎炎	53
120	抗糸球体基底膜腎炎	4
121	一次性ネフローゼ症候群	3
122	先天性腎性尿崩症	1
123	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4
124	オスラー病	9
125	閉塞性細気管支炎	1
126	肺胞低換気症候群	1
127	副甲状腺機能低下症	12
128	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	5
129	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	3
130	フェニルケトン尿症	2
131	メーブルシロップ尿症	3
132	プロピオン酸血症	1
133	メチルマロン酸血症	2
134	尿素サイクル異常症	6
135	肝型糖原病	1
136	原発性高カイロミクロン血症	3
137	家族性地中海熱	11
138	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アク ネ症候群	5
139	慢性再発性多発性骨髄炎	1
140	強直性脊椎炎	19
141	骨形成不全症	6
142	軟骨無形成症	6
143	エプスタイン症候群	1
144	クロンカイト・カナダ症候群	2
145	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
146	総排泄腔外反症	2
147	総排泄腔遺残	7
148	先天性横隔膜ヘルニア	2
149	胆道閉鎖症	208
150	アラジール症候群	15
151	IgG4関連疾患	30
152	黄斑ジストロフィー	1
153	好酸球性副鼻腔炎	21
154	進行性ミオクロームステんかん	1
155	先天異常症候群	2
156	先天性三尖弁狭窄症	1
157	カルニチン回路異常症	1
158	遺伝性自己炎症疾患	4
159	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	6
160	特発性多中心性キャスルマン病	1
161	ホモシスチン尿症	1
162	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群 を含む。)	1

疾患数	162
合計患者数(人)	5,244

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	術後疼痛管理チーム加算
歯科外来診療医療安全対策加算2	後発医薬品使用体制加算1
歯科外来診療感染対策加算4	病棟薬剤業務実施加算1
歯科診療特別対応連携加算	病棟薬剤業務実施加算2
特定機能病院入院基本料(一般病棟 7対1 精神病棟10対1)	データ提出加算2・4
救急医療管理加算	入退院支援加算1、3(入院時支援加算)
超急性期脳卒中加算	認知症ケア加算2
診療録管理体制加算1	せん妄ハイリスク患者ケア加算
医師事務作業補助体制加算1 25対1	精神疾患診療体制加算
25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上)(夜間100対1急性期看護補助体制加算、夜間看護体制加算、看護補助体制充実加算1)	精神科急性期医師配置加算2のイ
看護職員夜間12対1配置加算1	排尿自立支援加算
療養環境加算	地域医療体制確保加算
重症者等療養環境特別加算	救命救急入院料3(SER 24床)(救急体制充実加算1、精神疾患診断治療初回加算、早期離床・リハビリテーション加算、小児加算)
無菌治療室管理加算1	特定集中治療室管理料1(PICU 8床)(小児加算、早期離床・リハビリテーション加算)
無菌治療室管理加算2	特定集中治療室管理料2(ICU・CCU 26床)(早期離床・リハビリテーション加算、早期栄養介入管理料加算、小児加算)
緩和ケア診療加算	ハイケアユニット入院医療管理料1(第1HCU 12床、第2HCU 8床)(早期離床・リハビリテーション加算)
精神科身体合併症管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料(MFICU 12床、NICU 15床)(成育連携支援加算)
精神科リエゾンチーム加算	新生児治療回復室入院医療管理料(GCU 21床)
摂食障害入院医療管理加算	小児入院医療管理料1(プレイルーム加算ロ、無菌治療管理加算2、養育支援体制加算)
栄養サポートチーム加算	緩和ケア病棟入院料1
医療安全対策加算1	児童・思春期精神科入院医療管理料(精神科養育支援体制加算)
感染対策向上加算1(指導強化加算)	入院栄養管理体制加算
患者サポート体制充実加算	新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料
重症患者初期支援充実加算	小児緩和ケア診療加算
報告書管理体制加算	バイオ後続品使用体制加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	医療的ケア児(者)入院前支援加算
ハイリスク妊婦管理加算	情報通信機器を用いた診療
ハイリスク分娩管理加算	医療DX推進体制整備加算
呼吸ケアチーム加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	角膜移植術(内皮移植加算)
外来栄養食事指導料(注3に掲げるがん専門管理栄養士が栄養食事指導を行う場合)	羊膜移植術
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	角結膜悪性腫瘍切除術
糖尿病合併症管理料	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
がん性疼痛緩和指導管理料	緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
がん患者指導管理料イ	緑内障手術(濾過胞再建術)(needle法)
がん患者指導管理料ロ	網膜再建術
がん患者指導管理料ハ	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん患者指導管理料ニ	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
外来緩和ケア管理料	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
糖尿病透析予防指導管理料	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
小児運動器疾患指導管理料	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
婦人科特定疾患治療管理料	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
腎代替療法指導管理料	顎関節人工関節全置換術(歯科)
一般不妊治療管理料	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
生殖補助医療管理料1	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
二次性骨折予防継続管理料1	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
二次性骨折予防継続管理料3	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
下肢創傷処置管理料	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
慢性腎臓病透析予防指導管理料	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
がん薬物療法体制充実加算	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
歯科治療時医療管理料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
プログラム医療機器等指導管理料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
院内トリアージ実施料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)

外来放射線照射診療料	内視鏡下筋層切開術
外来腫瘍化学療法診療料1	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
ニコチン依存症管理料	胸腔鏡下弁形成術
療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
がん治療連携計画策定料	胸腔鏡下弁置換術
肝炎インターフェロン治療計画料	不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
外来排尿自立指導料	経皮的中隔心筋焼灼術
ハイリスク妊産婦連携指導料1	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
こころの連携指導料(Ⅱ)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
薬剤管理指導料	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
医療機器安全管理料1	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
医療機器安全管理料2	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
医療機器安全管理料(歯科)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
在宅患者訪問看護・指導料の注16に規定する専門管理加算	補助人工心臓
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	経皮的下肢動脈形成術
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
救急患者連携搬送料	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
経頸静脈的肝生検	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))

有床義歯咀嚼機能検査2のイ	腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
精密触覚機能検査	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
遺伝学的検査	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
骨髄微小残存病変量測定	体外衝撃波胆石破碎術
BRCA1／2遺伝子検査	腹腔鏡下肝切除術
がんゲノムプロファイリング検査	移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)
先天性代謝異常症検査	生体部分肝移植術
抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	同種死体肝移植術
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	体外衝撃波膵石破碎術
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ 判定)	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
検体検査管理加算(Ⅰ)	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
検体検査管理加算(Ⅳ)	同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
国際標準検査管理加算	生体部分小腸移植術
遺伝カウンセリング加算	同種死体小腸移植術
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	内視鏡的小腸ポリープ切除術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下直腸切除・切除術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胎児心エコー法	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
ヘッドアップテイルト試験	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
人工膵臓検査、人工膵臓療法	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
長期継続頭蓋内脳波検査	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
長期脳波ビデオ同時記録検査1	同種死体腎移植術
脳波検査判断料1	生体腎移植術
神経学的検査	膀胱水圧拡張術
補聴器適合検査	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
全視野精密網膜電図	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
ロービジョン検査判断料	人工尿道括約筋植込・置換術
コンタクトレンズ検査料1	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
小児食物アレルギー負荷検査	精巣内精子採取術

内服・点滴誘発試験	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
経気管支凍結生検法	腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
画像診断管理加算1	腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
遠隔画像診断	腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ポジトロン断層撮影	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術
ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合)	体外式膜型人工肺管理料
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合)	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)
CT撮影及びMRI撮影	経皮的僧帽弁クリップ術
冠動脈CT撮影加算	骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
心臓MRI撮影加算	緊急穿頭血腫除去術
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
外来化学療法加算1	腹腔鏡下膵中央切除術
無菌製剤処理料	尿道狭窄グラフト再建術
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	精巣温存手術
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)(遺伝性乳癌卵巣癌症候群乳房切除加算)
がん患者リハビリテーション料	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
リンパ浮腫複合的治療料	輸血管理料Ⅰ
歯科口腔リハビリテーション料2	脳腫瘍覚醒下マッピング加算
摂食嚥下機能回復体制加算2	貯血式自己血輸血管理体制加算
経頭蓋磁気刺激療法	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
救急患者精神科継続支援料	同種クリオプレシピテート作製術
児童思春期精神科専門管理加算	コーディネート体制充実加算
療養生活継続支援加算(通院精神療法)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
認知療法・認知行動療法1	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	手術の時間外加算1
医療保護入院等診療料	手術の休日加算1
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	手術の深夜加算1
多血小板血漿処置	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
エタノールの局所注入(甲状腺)	麻酔管理料(Ⅰ)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	麻酔管理料(Ⅱ)

人工腎臓	放射線治療専任加算
導入期加算3及び腎代替療法実績加算	外来放射線治療加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	高エネルギー放射線治療
血漿交換療法(1日につき)(難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法)	1回線量増加加算
血漿交換療法(1日につき)(移植後抗体関連型拒絶反応治療)	強度変調放射線治療(IMRT)
処置の休日加算1	画像誘導放射線治療(IGRT)
処置の時間外加算1	体外照射呼吸性移動体策加算
処置の深夜加算1	直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
ストーマ合併症加算	定位放射線治療呼吸移動対策加算
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	画像誘導密封小線源治療加算
歯科技工加算1及び2	病理診断管理加算2
センチネルリンパ節加算	悪性腫瘍病理組織標本加算
自家脂肪注入	クラウン・ブリッジ維持管理料
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	歯科矯正診断料
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	口腔粘膜血管腫凝固術
椎間板内酵素注入療法	歯科麻酔管理料
腫瘍脊椎骨全摘術	看護職員処遇改善評価料69
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	入院ベースアップ評価料82
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)	歯科技工士連携加算2
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	光学印象
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・細胞診検体を用いた遺伝子検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	○1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	65	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	10
	剖検率(%)	1.3

(注) 1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。

(注) 2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
生化学的及び形態学アプローチによる冠動脈石灰化病変の解析	船山 大	循環器内科学部門	1,100,000円	補 委	科学研究費助成事業(基盤研究C)
貫壁性リモデリング状態に基づいた左房後壁隔離の有効性を期待し得る患者選別法の確立	上岡 正志	循環器内科学部門	2,800,000円	補 委	科学研究費助成事業(基盤研究C)
クラウド送信型家庭血圧計を用いた高血圧患者の無症候性心房細動の早期発見	甲谷 友幸	循環器内科学部門	1,500,000円	補 委	科学研究費助成事業(基盤研究C)
石灰化冠動脈病変に対するPCI後の血管反応機序解明および予後予測因子の探索	大場祐輔	循環器内科学部門	800,000円	補 委	科学研究費助成事業(若手研究)
生活習慣改善における『デジタル行動変容』評価指標の研究開発	荻尾七臣	循環器内科学部門	18,755,000円	補 委	日本医療研究開発機構
新規マルチセンサー自由行動下血圧脈波計を用いた心不全スクリーニング法の探索	成田圭佑	循環器内科学部門	900,000円	補 委	科学研究費助成事業(若手研究)
血圧遠隔モニタリング管理システムを用いた震災被災者の心血管リスク低減に関する研究	星出 聡	循環器内科学部門	400,000円	補 委	科学研究費助成事業(基盤研究C)
心房細動における家庭血圧計を用いた血圧管理指標の確立と心房細動検出に関する研究	渡部智紀	循環器内科学部門	600,000円	補 委	科学研究費助成事業(基盤研究C)
せん断応力負荷による血管平滑筋細胞の生体反応と大動脈解離偽腔拡大の関連性の検討	相澤 啓	心臓血管外科	130万円	補 委	日本学術振興会
バクテリオファージを用いた非アルコール性脂肪性肝炎のコリン代謝評価と治療応用	三浦光一	消化器内科学	4,290,000/3年分 (2022～2024年度)	補 委	文科基盤C
クローン病の小腸狭窄の内視鏡的定量的評価の意義とバルーン拡張術後再狭窄要因の解明	矢野 智則	消化器内科学	4,810,000/5年分 (2023～2027年度)	補 委	文科基盤C
PD-L1陽性エクソソームを制御するCMTM分子群の解明と抗腫瘍免疫への展開	前門戸任	呼吸器内科	1,928,624	補 委	文部省科研費(基盤研究C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
癌性胸膜炎における免疫チェックポイント阻害剤の治療予測系の確立と効果増強戦略	間藤尚子	呼吸器内科	1,322,071	補 委	文部省科研費（基盤研究C）
改良コンディショナルリプログラミングによる2型肺胞上皮細胞の新規培養法と機能解析	久田 修	呼吸器内科	299,355	補 委	文部省科研費（基盤研究C）
特発性肺線維症の細気管支化における血管性ニッチの機能解明とその制御	久田 修	呼吸器内科	2,400,000	補 委	文部省科研費（基盤研究C）
肺の恒常性維持・生体防御・組織修復を標的とした難治性呼吸器疾患治療法の開発と応用	久田 修	呼吸器内科	130,000	補 委	文部省科研費（基盤研究B）
低価格3Dプリンター用いた気管支鏡シミュレーション教育の効果検証	中山雅之	呼吸器内科	1,656,613	補 委	文部省科研費（若手研究）
肺がん免疫療法における新規効果予測検査の開発研究	澤幡美千瑠	呼吸器内科	754,539	補 委	文部省科研費（若手研究）
IL-10発現アデノ随伴ウイルスベクターによる難治性呼吸器疾患の新規治療法開発	黒崎史朗	呼吸器内科	2,110,309	補 委	文部省科研費（若手研究）
びまん性肺疾患に関する調査研究	坂東政司	呼吸器内科	300,000	補 委	厚生労働科学研究費（難治性疾患政策研究事業）
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	坂東政司	呼吸器内科	170,000	補 委	厚生労働科学研究費（難治性疾患政策研究事業）
過敏性肺炎の全国疫学調査と疾患進行抑制のためのエクスポゾーム研究	坂東政司	呼吸器内科	65,000	補 委	AMED（分担者）
生体内で可視化できる肺癌の超微小転移モデルの確立	坪地宏嘉	呼吸器外科	169万円	補 委	日本学術振興会
コンピューターシミュレーションを用いた肺癌術後の左房内血栓形成リスクの定量評価	遠藤俊輔	呼吸器外科	65万円	補 委	日本学術振興会
eラーニングと肺模擬臓器を用いた胸腔鏡手術手技教育法の確立	山本真一	呼吸器外科	78万円	補 委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
非喫煙者肺がん早期発見に寄与する尿中エクソゾーム中のmatrix metalloproteinase-1(MMP-1)およびmicroRNA-486-5p の発	坪地宏嘉	呼吸器外科	200万円	補 委	喫煙科学研究財団
脳卒中診療において今後目指すべき回復期診療の検討及び回復期や維持期・生活期における診療体制の充実に資する臨床指標を確立させるための研究	藤本 茂	神経内科	760万円	補 委	循環器病疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究	藤本 茂	神経内科	100万円	補	循環器病疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
脳卒中急性期医療の均てん化を加速するための研究	藤本 茂	神経内科	20万円	補	循環器病疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
イントネシアでの、てんかん診療の質向上をめざしたデジタル脳波のワイドバンド成分の記録解析普及の実証研究	川合謙介	脳神経外科	315,900	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 AMED
希少てんかんに関する包括的研究	川合謙介	脳神経外科	550,000	補 委	厚生労働省
臨床応用に向けた視床を介する大脳皮質の上行性調節機構の解明	川合謙介	脳神経外科	4,800,000 1,440,000	補 委	文部科学省 基盤(B)
記憶時脳活動のニューロフィードバックによる機能的海馬移植の研究	國井尚人	脳神経外科	1,100,000 330,000	補 委	文部科学省 基盤(C)
侵襲的脳電気刺激を用いた睡眠時の感覚・情動情報処理の解明	大貫良幸	脳神経外科	2,100,000 630,000	補 委	文部科学省 基盤(C)
迷走神経刺激による老化知覚ネットワーク変容の検証	熊谷 慎一	脳神経外科	900,000	補 委	文部科学省 特別研究員 奨励費
ヒト嗅覚情報処理の神経基盤解明	井林 賢志	脳神経外科	500,000 150,000	補 委	文部科学省 若手
腎性貧血の治療抵抗性と心血管病の関連機序の解明 -TGF β の役割-	里中 弘志	腎臓内科学部門	1,200,000	補 委	文部科学省 科学研究費
SGLT2阻害薬による集合管拡張に着目した腎保護メカニズムの解明	増田 貴博	腎臓内科学部門	2,000,000	補 委	(公財)鈴木 万平糖尿病 財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腎組織内薬物分布動態とメタボローム解析を融合したタクロリムス腎症機序解析	岩見 大基	腎臓外科	¥5,850,000	補 委	科学研究費
免疫学的手法を用いたアスピリン予防による大腸がん予防の機序解明	中尾 俊雅	腎臓外科	¥1,562,091	補 委	科学研究費
成人T細胞性白血病/リンパ腫に対するTax特異的T細胞受容体遺伝子導入免疫細胞療法の医師主導治験	神田喜伸	血液学	77,000千円	補 委	AMED
成人T細胞白血病患者リンパ腫に対する遺伝子導入細胞療法の至適化	神田喜伸	血液学	1,300千円	補 委	科研費
エリスロポエチン誘導性選択的制御遺伝子(SRG)搭載CAR-T療法の非臨床開発	大嶺 謙	血液学	42,300千円	補 委	AMED
脂質ミトコンドリア輸送を標的としたBCL-2阻害剤抵抗性白血物の耐性克服	佐藤一也	血液学	1,690千円	補 委	科研費
脂肪肝関連疾患にともなう動脈硬化性心血管疾患の二次・三次予防に資するヘルスケアサービスの指針策定及びシステム開発に関する研究	矢作 直也	内分泌代謝学	1,040,000	補 委	AMED
EGPAにおけるサイトカインネットワークの解析と好酸球が産生する因子の同定	佐藤浩二郎	アレルギー膠原病学	140万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金
抗MDA-5抗体陽性皮膚筋炎におけるI型IFN/IP-10軸およびpyroptosis経路の関与の解析	中村潤	アレルギー膠原病学	150万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金
トイモデルを利用したベーチェット病等炎症性疾患発症機序の解析	小又尉広	アレルギー膠原病学	50万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金
新規MRI撮像法を用いた末梢性顔面神経麻痺の画像評価法の確立、予後評価の検討.	藤井裕之	画像診断科	455万円	補 委	日本学術振興会 科学研究費補助金 若手研究
難治性リンパ漏に対する胸管内リンパ液自動誘導システムの開発.	濱本耕平	画像診断科	390万円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究◎
3次元医用画像タスクに汎用利用可能な事前学習モデルの確立と公開(23K17234)	菊地智博	画像診断科	455万円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
実臨床画像を用いた公開セグメンテーションモデルの性能評価と改善	菊地智博	画像診断科	100万円	補委	2023年 AOMRI研究助成金制度
SIP第3期補正予算「統合型ヘルスケアシステムの構築における生成AIの活用」テーマ2	菊地智博	画像診断科	64億円	補委	SIP第3期補正予算「統合型ヘルスケアシステムの構築にお
急性弛緩麻痺等の神経疾患に関する網羅的病原体検索を含めた原因及び病態の究明、治療法の確立に資する臨床疫学研究(22HA1003).	森 壘	画像診断科	50万円	補委	令和6年度厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推
メチルフェニデート中毒の機序解明と治療薬の開発	塩田勝利	精神医学	4,550,000	補委	文科省科研費助成事業(基盤研究C)
自己誘発嘔吐を伴う摂食障害に対する反復性経頭蓋磁気刺激療法	稲川優多	精神医学	4,680,000	補委	文科省科研費助成事業(若手研究)
扁平上皮癌の転移と増殖におけるIL-33の役割	アンサリー・トゥバ・マサラット	皮膚科学	700,000	補委	文科省科研費
脊柱靱帯骨化症に関する研究調査	竹下 克志	整形外科学	250,000	補委	厚生労働省
後縦靱帯骨化症バイオマーカーとしてのGla-rich proteinの有用性に関する検討	木村 敦	整形外科学	900,000	補委	日本学術振興会
大動物モデルを用いた広範囲腱板断裂に対する骨付き膝蓋腱移植術の有用性評価	笹沼 秀幸	整形外科学	700,000	補委	日本学術振興会
大動物モデルを用いた膝前十字靱帯再建術後移植腱に続発性無月経が与える影響の評価	高橋 恒存	整形外科学	1,800,000	補委	日本学術振興会
大動物慢性期膝蓋腱障害モデルにおける経時的変化の生体力学的、組織学的評価	倉品 渉	整形外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
肝移植後拒絶反応のタクロリムス薬物動態と直接イオン化法による拒絶反応診断	平田 雄大	消化器一般移植外科	3,000,000	補委	臨床薬理研究振興財団
がん悪液質の新規治療法開発 ポリアミンによる機能低下したミトコンドリアの活性化	笠原 尚哉	消化器一般移植外科	4,550,000	補委	文科省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
細胞賦活効果を有する大豆胚芽抽出物の有効成分の同定および作用機序の解析	寺谷 工	消化器一般移植外科	4,680,000	補 委	文科省
小児肝移植における移植肝の予後マーカー解析	眞田 幸弘	消化器一般移植外科	2,340,000	補 委	文科省
軟部組織再建のための体外培養による新規高生着性生体材料の開発	素輪 善弘	形成外科学	5,300,000	補 委	文部科学省
生体内系譜追跡による脂肪由来幹細胞の機能解析に基づく新規再生医療の開発	須永 中	形成外科学	800,000	補 委	文部科学省
脂肪幹細胞投与による確定的放射線障害の予防治療の開発	櫻井 淳	形成外科学	1,000,000	補 委	文部科学省
確定的放射線障害に対する、脂肪幹細胞の再生能を用いた予防的治療法の開発	古川 航多	形成外科学	1,000,000	補 委	文部科学省
脂肪由来幹細胞および血管内皮前駆細胞の浄化濃縮培養上清による糖尿病足病変の治療	井上 啓太	形成外科学	800,000	補 委	文部科学省
疾患特異的ヒト脂肪由来幹細胞培養上清の開発とその臨床応用についての研究	森田 侑平	形成外科学	1,400,000	補 委	文部科学省
寿命の延長を目指した脂肪由来幹細胞の全身投与による再生医療に関する基礎的研究	森下 悠也	形成外科学	1,100,000	補 委	文部科学省
培養間葉系幹細胞の全身投与による確定的放射線障害の画期的予防治療法の開発	吉里 勝利	形成外科学	1,200,000	補 委	文部科学省
放射線大量被ばくからの救命を目的とした再生医療の開発	加持 秀明	形成外科学	1,200,000	補 委	文部科学省
ヒト脂肪血管内皮前駆細胞とそのセクレトームエキスの開発及び難治性潰瘍に対する治療	齋藤 夏美	形成外科学	1,300,000	補 委	文部科学省
毛包上皮幹細胞とメラノサイトによる培養表皮シートを用いた新規尋常性白斑治療の開発	渡邊 晶子	形成外科学	1,100,000	補 委	文部科学省
幹細胞セクレトームエキスをを用いた体外受精卵の着床率改善治療の開発	森 正徳	形成外科学	1,300,000	補 委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
幹細胞セクレトームを用いた再生医療のための経皮導入法の確立	菊地 詩帆	形成外科学	1,600,000	補 委	文部科学省
ヒト脂肪由来幹細胞の浄化濃縮培養上清による腱再生治療の開発	河野 由布子	形成外科学	1,000,000	補 委	文部科学省
放射線障害の病態解析：形成外科治療に及ぼす影響から予防法と非侵襲的治療法の確立	朝日 林太郎	形成外科学	1,400,000	補 委	文部科学省
ヒト脂肪組織由来幹細胞と多血小板血漿を併用した新たな末梢神経再生法の開発	素輪 善弘	形成外科学	40,000	補 委	文部科学省
生殖医療ガイドラインと新保険制度の運用実態調査と今後の改良に向けた研究	左 勝則	産科婦人科学	500,000	補 委	こども家庭科学研究費
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	藤原 寛行	産科婦人科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
思春期女性への HPV ワクチン公費助成開始後における子宮頸癌の HPV16/18 陽性割合の推移に関する疫学研究	藤原 寛行	産科婦人科学	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新生児ヘモクロマトーシスに対する胎内ガンマグロブリン大量静注療法の医師主導治験	高橋 宏典	産科婦人科学	708,500	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血管新生および微小管調節因子バソヒビン2を標的とした卵巣がん治療の開発	小柳 貴裕	産科婦人科学	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
妊娠初期の血中 microRNAを用いた癒着胎盤における新規診断法の構築	高橋 宏典	産科婦人科学	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
胎盤由来エクソソームによる妊娠高血圧腎症の予知法に関する研究	鈴木 寛正	産科婦人科学	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
妊娠期におけるサルコペニア肥満の臨床的意義に関する研究	高橋 宏典	産科婦人科学	300,000	補 委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
妊娠初期妊婦レジストリ事業の発足並びに早産期発症妊娠高血圧腎症予測モデルの開発	大口 昭英	産科婦人科学	800,000	補 委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
胎盤由来細胞間輸送体の新パラダイムによる妊娠高血圧腎症・早産の病態解明と発症予知	大口 昭英	産科婦人科学	50,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
胎盤由来細胞間輸送体の新パラダイムによる妊娠高血圧腎症・早産の病態解明と発症予知	高橋 宏典	産科婦人科学	50,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
卵巣癌の実地臨床で簡便に利用可能なペバシズマブの新規バイオマーカー開発	竹井 裕二	産科婦人科学	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
血管新生調節因子バソヒビン1搭載アデノ随伴ウイルスベクターによる新規卵巣がん治療	嵯峨 泰	産科婦人科学	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
母体血中non-coding RNAによる妊娠高血圧腎症の発症予知法の開発	小古山 学	産科婦人科学	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費(若手研究)
小児領域を含む薬剤耐性感染症対策に係る地域間連携の標準モデルの策定・推進に資する研究	伊藤真人	耳鼻咽喉科	1,000,000円	補委	厚生労働省科学研究費補助金
中耳の可視化による中耳炎の鑑別診断法の確立-治療的成果のために-	伊藤真人	耳鼻咽喉科	910,000	補委	文科省 学術研究助成基金助成金
リキッドバイオプシー検体のメチル化解析によるHPV関連中咽頭がんの個別化治療の確立	金澤丈治	耳鼻咽喉科学	1,170,000	補委	文科省学術研究助成基金助成金
免疫チェックポイント阻害薬不応のがん微小環境の免疫担当細胞の生物学的活性	西野 宏	耳鼻咽喉科学	1,430,000	補委	文科省- 学術研究助成基金助成金
中枢に焦点をあてた顔面神経麻痺に対する遺伝子治療の開発	野田 昌生	耳鼻咽喉科学	1,690,000	補委	文科省学術研究助成基金助成金
蛍光眼底造影検査を用いない網膜新生血管の早期発見手法の確立	高山卓也	眼科学	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
眼底画像による機械学習を用いた眼内悪性リンパ腫の診断システムの開発	高橋 秀徳	眼科学	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
造影を利用したカラー写真における網膜非灌流領域の深層学習による病態解明基盤構築	坂本 晋一	眼科学	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
網膜静脈閉塞症の発症直前変化の病態解明	新井 悠介	眼科学	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肝切除後フェンタニル血中濃度と網羅的メタボローム解析によるPONVリスク因子の検討	竹内 譲	麻酔科	4,550,000	補 委	文科省
下部消化管出血に対するイミペネムを用いた血管内治療の確立:腸管虚血回避に向けて	中間楽平	国立研究開発法人 国立がん研究センター	¥65,000	補 委	科学研修費 助成事業
C-1 地方自治体の意思決定支援システム開発による、住民の医療資源アクセス提供体制の最適配置・財源調整、地域共生社会のための安全ネットワークの実現	畠山 修司	感染症学部門	10, 000, 000円	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
AAVウイルス遺伝子治療による中枢神経単一細胞発現マッピング	小坂 仁	小児科学	1,400,000	補 委	文部科学省
小児の骨髄異形成症候群に関連した急性骨髄性白血病のクローン多様性と進化の解析	嶋田 明	小児科学	1,100,000	補 委	文部科学省
妊娠高血圧症候群と早産低出生体重児の心血管疾患・腎疾患関連遺伝子メチル化との関連	河野 由美	小児科学	600,000	補 委	文部科学省
ニューロメラニンMRIと脳機能検査を用いたADHDの脳内ホルモン機能検証	門田 行史	小児科学	900,000	補 委	文部科学省
Rett症候群・MECP2重複症候群に対する発現量調整可能なAAV遺伝子治療開発	小島 華林	小児科学	1,000,000	補 委	文部科学省
Foxp2による消化管・腸管神経系形成の分子機構と転写活性欠失変異の影響	神保 恵理子	小児科学	1,100,000	補 委	文部科学省
MECP2の発現制御によるRett症候群/MECP2重複症候群の遺伝子治療開発	宮内 彰彦	小児科学	3,933,333	補 委	文部科学省
超音波顕微鏡による安全・正確な腎生検法と音響データ付加・組織診断法の開発	伊東 岳峰	小児科学	1,600,000	補 委	文部科学省
フェロトーシスを軸としたミトコンドリア病の病態解明と治療開発	三谷 忠宏	小児科学	1,200,000	補 委	文部科学省
予防的親子相互交流療法を用いた里親子関係構築システムの開発	俣野 美雪	小児科学	900,000	補 委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
後期早産児における視知覚認知の発達過程および発達リスクとの関係に関する基礎的研究	俣野 美雪	小児科学	600,000	補 委	文部科学省
Niemann-Pick病C型の診断と治療効果判定のための新規バイオマーカー探索	渡邊 知佳	小児科学	1,100,000	補 委	文部科学省
iPS細胞を用いた神経変性疾患SENDAの病態解明と新規治療開発	月田 貴和子	小児科学	1,200,000	補 委	文部科学省
ランゲルハンス細胞組織球症における骨病変バイオマーカーの確立	森本 哲	小児科学	600,000	補 委	文部科学省
AADC欠損症の遺伝子治療におけるドーパミン神経系等の病態と改善機構の解析	山形 崇倫	小児科学	800,000	補 委	文部科学省
リソソーム性シアリダーゼ欠損症に対する新規遺伝子治療法開発	伊藤 孝司	小児科学	770,000	補 委	文部科学省
遺伝子発現制御機構の開発によるRett症候群及びMECP2重複症候群の遺伝子治療開発	小島 華林	小児科学	57,200,000	補 委	AMED
医療&福祉DXを活用した全世代ケアラーのヘルスエクイティを目指す地域共創拠点	門田 行史	小児科学	14,711,000	補 委	JST
グルコーストランスポーター1欠損症に対する遺伝子治療開発	小坂 仁	小児科学	60,000,000	補 委	AMED
小児がん経験者の生活習慣病の実態調査と病態解析、予防対策	嶋田 明	小児科学	10,000,000	補 委	AMED
遺伝性白質疾患・知的障害をきたす疾患の医療水準の向上と療養に資する研究システムの構築	村松 一洋	小児科学	17,000,000	補 委	厚生労働省
低出生体重児の中長期的な心身の健康リスクの解明とフォローアップ・支援体制の構築に向けた研究	河野 由美	小児科学	7,200,000	補 委	こども家庭庁
ヤングケアラー負担ゼロに向けた家族まるごと支援を促進するシナリオ創出	門田行史	小児科学	2,500,000	補 委	JST
オートファジー病SENDA/BPANに対する新規遺伝子治療開発と治験準備	村松 一洋	小児科学	60,000,000	補 委	AMED

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
オルニチントランスカルバミラーゼ(OTC)欠損症に対する遺伝子治療開発と治験実施	村松 一洋	小児科学	80,000,000	補 委	AMED
開腹手術後の小児に対する腸内細菌叢モニタリングを用いた診断・治療	薄井佳子	小児外科	4,680,000	補 委	科研費
呼吸器系先天異常疾患の医療水準向上と移行期医療に関する研究(23FC1051)	照井慶太	小児外科	1,261,000	補 委	厚労科研
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計135

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kario K, Akari S, Kanegae H.	循環器内科	Cardiovascular Events During Treatment With Xanthine Oxidoreductase Inhibitors in Patients With Gout and Hyperuricemia in Japan – A JMDC Claims Database Study	Circ Rep. 2025 Feb 19;7(3):183–190.	Original Article
2	Iwama H, Kamioka M, Watanabe H, et al.	循環器内科	Pulmonary vein stenosis requiring angioplasty or surgical treatment following pulmonary vein isolation: case series	Eur Heart J Case Rep. 2025 Feb 25;9(3):ytaf101.	Case report
3	Hoshide S, Nishizawa M, Kanegae H, et al.	循環器内科	Association of Longitudinal Change in Ambulatory Blood Pressure With Cognitive Decline in Older Adults	JACC Adv. 2025 Jan 13;4(2):101560.	Original Article
4	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	循環器内科	Hypertension Research global initiatives 2025 added new themes–“implementation hypertension” and “morning hypertension”	Hypertens Res. 2025 Mar;48(3):877–878.	Others
5	Hoshide S, Tomitani N, Hamasaki H, et al.	循環器内科	Awareness campaign about hypertension for junior high school students	Hypertens Res. 2025 Mar;48(3):1257–1259.	Letter
6	Mizuno H, Harada K, Fujimura K, et al.	循環器内科	Infective rupture of caseous calcification of the mitral annulus resulting in fatal systemic embolism	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2025 Mar 27;26(4):766.	Case report
7	Tomitani N, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Comparison of nocturnal blood pressure dipping status detected by home vs. ambulatory blood pressure monitoring: analysis of J-HOP Nocturnal BP Study data	Hypertens Res. 2025 Mar;48(3):1163–1168.	Original Article
8	Kario K, Nishiyama A, Shibata S, et al.	循環器内科	Digital hypertension, implementation hypertension, and internationalization – 3 pillars of Japanese Society of Hypertension 2024–2026 advancing hypertension science from Japan to the world in the information network era	Hypertens Res. 2025 Jan;48(1):1–5.	Review
9	Kario K, Katsuya T, Shimomura T, et al.	循環器内科	Rationale and Design of a Randomized, Open-Label, Parallel-Group Study of Esaxerenone Versus Angiotensin Receptor Blockers in Older Patients With Uncontrolled Hypertension on Calcium Channel Blocker Monotherapy (ESCORT-HT)	J Clin Hypertens (Greenwich). 2025 Jan;27(1):e14947.	Original Article
10	Kario K, Kanegae H, Hoshide S.	循環器内科	Home blood pressure stability score is associated with better cardiovascular prognosis: data from the nationwide prospective J-HOP study	Hypertens Res. 2025 Feb;48(2):604–612.	Original Article
11	Kario K, Tomitani N, Haimoto K, et al.	循環器内科	Concept, study design, and baseline nighttime blood pressure control status of the WSDOM-Night Study using a wrist-type oscillometric home blood pressure monitoring device	Hypertens Res. 2025 Feb;48(2):592–603.	Original Article
12	Kario K, Ohbayashi H, Hashimoto M, et al.	循環器内科	Home blood pressure-lowering effect of esaxerenone versus trichlormethiazide for uncontrolled hypertension: a predefined subanalysis of the EXCITE-HT randomized controlled trial by basal calcium channel blocker versus angiotensin receptor blocker	Hypertens Res. 2025 Feb;48(2):506–518. .	Original Article
13	Kario K, Hoshide S, Kabutoya T, et al.	循環器内科	Impact of vascular biomarkers and supine hypertension on cardiovascular outcomes in hypertensive patients: first results from the Cardiovascular Prognostic COUPLING Study in Japan	Hypertens Res. 2025 Feb;48(2):693–701.	Original Article
14	Oba Y, Kabutoya T, Kohro T, et al.	循環器内科	Achievement of guideline-recommended target blood pressure is associated with reducing the risk of hemorrhagic and ischemic stroke in Japanese coronary artery disease patients –the CLIDAS study	Hypertens Res. 2025 Feb;48(2):632–639.	Original Article
15	Kario K, Okawara Y, Kanegae H, et al.	循環器内科	Peak nocturnal home blood pressure as an early and strong novel risk factor for stroke: the practitioner-based nationwide J-HOP Nocturnal BP study	Hypertens Res. 2025 Feb;48(2):622–631.	Original Article
16	Suzuki N, Kobayashi H, Oba Y, et al.	循環器内科	Late Sinus of Valsalva Sequestration after TAVI Causing Acute Coronary Syndrome	doi: 10.33290/jtv.t.25-0007	Case report
17	Kamioka M, Watanabe T, Watanabe H, et al.	循環器内科	High-power short-duration setting prevents changes of periprocedural thrombotic markers and the onset of silent stroke in patients with atrial fibrillation	Heart Rhythm O2. 2024 Oct 5;5(12):917–924.	Original Article
18	Hirata Y, Toriumi S, Harada K, et al.	循環器内科	Periannular extension of infective endocarditis with atrioventricular block successfully treated with antibiotic therapy after transcatheter aortic valve implantation: a case report	Eur Heart J Case Rep. 2024 Dec 10;8(12):ytae633.	Case report
19	Fujiwara T, Hoshide S, Sheppard JP, et al.	循環器内科	Cardiovascular Events Risk in Office-Masked Nocturnal Hypertension Defined by Home Blood Pressure Monitoring	JACC Adv. 2024 Nov 7;3(11):101352.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
20	Makimoto H, Okatani T, Suganuma M, et al.	循環器内科	Identifying Ventricular Dysfunction Indicators in Electrocardiograms via Artificial Intelligence-Driven Analysis	Bioengineering (Basel). 2024 Oct 26;11(11):1069.	Original Article
21	Kario K, Cao KN, Tanaka Y, et al.	循環器内科	Cost-Effectiveness of Radiofrequency Renal Denervation for Uncontrolled Hypertension in Japan	J Clin Hypertens (Greenwich). 2024 Dec;26(12):1502-1512.	Original Article
22	Hoshide S, Mogi M, Kario K.	循環器内科	Asian hypertensive population: key insights from large-scale data analysis	Hypertens Res. 2024 Nov;47(11):2979-2980.	Others
23	Kario K, Kandzari DE, Mahfoud F, et al.	循環器内科	Renal Denervation Lowers Nighttime Blood Pressure in True Resistant Hypertension	Hypertension. 2024 Dec;81(12):e200-e202.	Letter
24	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	循環器内科	The need for a personalized “implementation hypertension” strategy to facilitate the implementation of the new European Society of Hypertension (2023), European Society of Cardiology (2024) and the upcoming Japanese Society of Hypertension (2025) hypertension guidelines in clinical practice	Hypertens Res. 2024 Dec;47(12):3380-3382.	Others
25	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	循環器内科	Renal denervation up-to-date 2024: evidence and perspectives in Japan	Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2621-2623.	Others
26	Fujiwara T, Koshiazis C, Schwartz CL, et al.	循環器内科	Differences in ambulatory versus home blood pressure levels by ethnicity: data from the United Kingdom and Japan	J Hum Hypertens. 2024 Dec;38(12):828-835.	Original Article
27	Tomitani N, Hoshide S, Kanegae H, et al.	循環器内科	Daytime actisensitivity predicts nocturnal dipping patterns and morning surge in blood pressure: the Home-Activity ICT-based Japan Ambulatory Blood Pressure Monitoring Prospective study	J Hypertens. 2024 Dec 1;42(12):2164-2172.	Original Article
28	Kario K, Williams B, Tomitani N, et al.	循環器内科	Innovations in blood pressure measurement and reporting technology: International Society of Hypertension position paper endorsed by the World Hypertension League, European Society of Hypertension, Asian Pacific Society of Hypertension, and Latin American Society of Hypertension	J Hypertens. 2024 Nov 1;42(11):1874-1888.	Review
29	Ogoyama Y, Kario K.	循環器内科	Aspects of renal function and renal artery anatomy as indications for renal denervation	Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2711-2717.	Review
30	Katsurada K, Kario K.	循環器内科	Effects of renal denervation on the incidence and severity of cardiovascular diseases	Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2700-2710.	Review
31	Kario K.	循環器内科	What are the ideal metrics for assessing the quality of long-term stabilized “perfect” 24-h BP control after renal denervation?	Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2644-2651.	Review
32	Tomitani N, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Sleep and hypertension – up to date 2024	Hypertens Res. 2024 Dec;47(12):3356-3362.	Review
33	Narita K, Shimbo D, Kario K.	循環器内科	Assessment of blood pressure variability: characteristics and comparison of blood pressure measurement methods	Hypertens Res. 2024 Dec;47(12):3345-3355.	Review
34	Kamioka M, Narita K, Watanabe T, et al.	循環器内科	Hypertension and atrial fibrillation: the clinical impact of hypertension on perioperative outcomes of atrial fibrillation ablation and its optimal control for the prevention of recurrence	Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2800-2810.	Original Article
35	Kario K.	循環器内科	Catheter-Based Renal Denervation Ready for the Management of Hypertension: Evidence, Challenges, and Perspectives	J Am Heart Assoc. 2024 Aug 20;13(16):e037099.	Review
36	Kario K, Kanegae H, Okawara Y, et al.	循環器内科	Home Blood Pressure Variability Risk Prediction Score for Cardiovascular Disease Using Data From the J-HOP Study	Hypertension. 2024 Oct;81(10):2173-2180.	Original Article
37	Katsurada K, Kario K.	循環器内科	Indications for renal denervation in the treatment of hypertension	Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2693-2699.	Review
38	Hoshide S, Mogi M, Kario K.	循環器内科	Hypertension in Asia: Genetic, lifestyle, and clinical insights	Hypertens Res. 2024 Aug;47(8):2007-2008.	Others
39	Kario K, Katsuya T, Wada J, et al.	循環器内科	Factors influencing the efficacy and safety of esaxerenone in hypertensive patients: a pooled analysis of five clinical studies on different comorbidities	Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2826-2839.	Original Article
40	Kario K, Kai H, Rakugi H, et al.	循環器内科	Consensus statement on renal denervation by the Joint Committee of Japanese Society of Hypertension (JSH), Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics (CVIT), and the Japanese Circulation Society (JCS)	Cardiovasc Interv Ther. 2024 Oct;39(4):376-385.	Review
41	Kario K, Kai H, Rakugi H, et al.	循環器内科	Consensus Statement on Renal Denervation by the Joint Committee of Japanese Society of Hypertension (JSH), Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics (CVIT), and the Japanese Circulation Society (JCS)	Circ J. 2024 Sep 25;88(10):1718-1725.	Review
42	Kario K, Kai H, Rakugi H, et al.	循環器内科	Consensus statement on renal denervation by the Joint Committee of Japanese Society of Hypertension (JSH), Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics (CVIT), and the Japanese Circulation Society (JCS)	Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2624-2632.	Review
43	Kario K, Ohbayashi H, Hashimoto M, et al.	循環器内科	Home blood pressure-lowering effect of a non-steroidal mineralocorticoid receptor blocker, esaxerenone, versus trichlormethiazide for uncontrolled hypertension: the EXCITE-HT randomized controlled study	Hypertens Res. 2024 Sep;47(9):2435-2446.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
44	Narita K, Kario K.	循環器内科	Intensive blood pressure management in patients using multiple classes of antihypertensive drugs or with resistant hypertension	Hypertens Res. 2024 Sep;47(9):2607–2609.	Letter
45	Ogoyama Y, Kario K.	循環器内科	Differences in the effectiveness and safety of different renal denervation devices	Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2678–2684.	Review
46	Kario K, Shiosakai K, Taguchi T.	循環器内科	Antihypertensive effect of esaxerenone and correlation between brachial and wrist home monitoring devices in patients with nocturnal hypertension: A post hoc analysis of the EARLY-NH study	J Clin Hypertens (Greenwich). 2024 Jul;26(7):842–849.	Original Article
47	Narita K, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Relationships of Office, Ambulatory, and Self-measured Blood Pressure With Cardiac, Renal, and Atherosclerotic Biomarkers	Am J Hypertens. 2024 Sep 16;37(10):769–776.	Original Article
48	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	循環器内科	Hypertension treatment up–date on World Hypertension Day 2024: current status and future prospects in Asia	Hypertens Res. 2024 Jul;47(7):1763–1765.	Others
49	Okuyama T, Kabutoya T, Kario K.	循環器内科	Notched P–wave on digital electrocardiogram predicts the recurrence of atrial fibrillation in patients who have undergone catheter ablation	J Arrhythm. 2024 May 2;40(3):472–478.	Original Article
50	Ogoyama Y, Abe M, Okamura K, et al.	循環器内科	Effects of renal denervation on blood pressure in patients with hypertension: a latest systematic review and meta–analysis of randomized sham–controlled trials	Hypertens Res. 2024 Oct;47(10):2745–2759.	Review
51	Kabutoya T, Kario K.	循環器内科	How should we treat high–normal blood pressure and pre–atrial fibrillation?	Hypertens Res. 2024 Aug;47(8):2225–2227.	Others
52	Hoshide S, Mogi M, Kario K.	循環器内科	Original article and review highlighted in this month of Hypertension Research	Hypertens Res. 2024 May;47(5):1095–1096.	Others
53	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	循環器内科	Salt and seasonal variation research in Asia	Hypertens Res. 2024 Apr;47(4):833–834.	Others
54	Watanabe T, Hoshide S, Hachiya H, et al.	循環器内科	Impact of nocturnal blood pressure dipping on recurrence of atrial fibrillation after pulmonary vein isolation	Hypertens Res. 2024 Jun;47(6):1688–1696.	Original Article
55	Kario K, Okura A, Hoshide S, et al.	循環器内科	The WHO Global report 2023 on hypertension warning the emerging hypertension burden in globe and its treatment strategy	Hypertens Res. 2024 May;47(5):1099–1102.	Others
56	Tomitani N, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Could wristwatch–type wearable oscillometric blood pressure monitoring be a third option for out–of–office blood pressure monitoring?	Hypertens Res. 2024 Apr;47(4):1078–1080.	Letter
57	Kario K, Hoshide S, Yamamoto K, et al.	循環器内科	Clinical studies on pharmacological treatment of hypertension in Japan	J Hum Hypertens. 2024 Jun;38(6):486–499.	Review
58	Kawahito K, Kimura N, Yamaguchi A, et al.	心臓血管外科	Impact of Residual Entry Tears in the Descending Aorta After Type A Dissection	Ann Thorac Surg 118:579–588,2024.	Original Article
59	Hashimoto, K., Ino, Y., Ishii, H., Shinozaki, S., Miura, Y., Despott, E. J., Yano, T., Yamamoto, H.	消化器内科学部門	Gel immersion endoscopic mucosal resection for small gastric neoplastic lesions	DEN Open. 5(1): e70004, 2024	Original Article
60	Hashimoto, K., Nemoto, D., Hayashi, Y., Takezawa, T., Sakamoto, H., Lazaridis, N., Yamamoto, H.	消化器内科学部門	Novel endoscopic strictureplasty with longitudinal incisions and hot biopsy forceps removal for a rectal refractory stricture in Crohn's disease.	Endosc Int Open. 12(1): e97–98, 2024.	Case report
61	Ino, Y., Fukuda, H., Ueno, T., Hayashi, H., Nomoto, Y., Takahashi, H., Yamamoto, H.	消化器内科学部門	Continuous low–pressure saline perfusion for gastric endoscopic submucosal dissection.	Endoscopy. 56(S 01): e880–881, 2024.	Case report
62	Kagaya, Y., Hayashi, Y., Morikawa, T., Hayashi, H., Fukuda, H., Kayali, S., Yamamoto, H.	消化器内科学部門	A transanal alpha–loop tube facilitates endoscopic submucosal dissection of a distal rectal tumor.	Endoscopy. 56(S 01): e620–621, 2024.	Case report
63	Morikawa T, Murino A, Ishii H, Hayashi Y, Kagaya Y, Fukuda H, Despott E. J, Yamamoto H.	消化器内科学部門	The “Asclepius tube”: a slim drainage tube wrapped around the distal part of the endoscope for cecal endoscopic submucosal dissection.	VideoGIE: 10(2): 155–159, 2024.	Case report
64	Morikawa, T., Nemoto, D., Kurokawa, T., Yamashina, T., Hayashi, Y., Kitamura, M., Okada, M., Takezawa, T., Nakajima, Y., Kowazaki, Y., Fukuda, H., Nomura, T., Lazaridis, N., Fukushima, N., Sunada, K., Yamamoto, H.	消化器内科学部門	Multicenter prospective randomized controlled clinical trial comparing the pocket–creation method with and without single–clip traction of colonic endoscopic submucosal dissection.	Endoscopy. 56(8): 583–593, 2024.	Original Article
65	Owada, J, Kihara, A, Yano, T.	消化器内科学部門	Novel cold snare technique with clipping for duodenal angioectasia. Digestive Endoscopy.	Digestive Endoscopy. 36(4): 499–501, 2024.	Case report
66	Tamaru, T., Oguro, K., Yano, T., Ono, Y., Sakamoto, H., Despott, E. J., Yamamoto, H.	消化器内科学部門	Clip–and–pull method: re–strangulation of a sizable small–bowel polyp for endoscopic ischemic polypectomy. Endoscopy.	Endoscopy. 56(S 01): e424–425, 2024.	Case report
67	Yokoyama, K, Kanno, A, Tanaka, A, Sakurai, Y, Ikeda, E, Ando, K, Nagai, H, Yano, T, Yamamoto, H.	消化器内科学部門	Factors affecting complete stone removal and bile duct stone recurrence in patients with surgically altered anatomy treated by double–balloon endoscopy–assisted endoscopic retrograde cholangiography.	Digestive Endoscopy. 36(11): 1269–1279, 2024.	Original Article
68	Arai N, Takasaki T, Bando M	呼吸器内科	A case of microscopic polyangiitis with interstitial pneumonia after coronavirus disease–2019 infection, evidenced by positivity for multiple autoantibodies.	Respir Med Case Rep. 51:102103, 2024,	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
69	Bando M, Chiba H, Miyazaki Y	呼吸器内科	Current challenges in the diagnosis and management of idiopathic pulmonary fibrosis in Japan.	Respir Investig. 62(5): 785–793, 2024.	Original Article
70	Bando M, Homma S, Date H	呼吸器内科	Ministry of Health, Labour and Welfare, the Study Group on Diffuse Pulmonary Disorders, Scientific Research/Research on Intractable Diseases, and Japanese Respiratory Society. Japanese guidelines for the treatment of idiopathic pulmonary fibrosis 2023:Revised edition.	Respir Investig. 62(3): 402–418, 2024.	Original Article
71	Kawasaki J, Mato N, Fujii H	呼吸器内科	Significance of persistent systemic support in the clinical course of delayed post-hypoxic leukoencephalopathy following severe coronavirus disease 2019.	Intern Med. 63: 1167–1172, 2024.	Original Article
72	Kurosaki F, Kuroki T, Nomura Y	呼吸器内科	Prolonged paradoxical reaction requiring over 5 years of corticosteroid administration in a patient with severe tuberculous meningitis.	J Infect Chemother. 30(4): 357–361, 2024.	Original Article
73	Kurosaki F, Takigami A, Takeuchi M	呼吸器内科	Successful pain control with add-on methadone for refractory neuropathic pain due to radiation necrosis in pontine metastatic lesion: a case report.	BMC Palliat Care. 23(1): 216, 2024.	Original Article
74	Maemondo M, Cho K, Saikawa H	呼吸器内科	A step towards tackling chemotherapy-induced peripheral neuropathy (CIPN).	Ann Palliat Med. 13: 1554–1555, 2024.	Original Article
75	Takigami A, Mato N, Hagiwara K	呼吸器内科	A novel bioassay reflecting response to immune checkpoint inhibitor therapy in non-small cell lung cancer with malignant pleural effusion.	Transl Lung Cancer Res. 13: 3267–3277, 2024.	Original Article
76	Yaoita K, Takasaki T, Ito S	呼吸器内科	Large cell neuroendocrine carcinoma with acquired hemophilia a diagnosed by endobronchial biopsy: A case report.	Cureus. 16: e70623, 2024.	Original Article
77	Yamamoto S., Nakayama M.	呼吸器外科	Endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration (EBUS-TBNA): revolutionizing the landscape of lung disease diagnostics.	J Medical Ultrasonics 51:245–251,2024.	Review
78	藤本 茂	神経内科	Impact and management of integrated dysphagia rehabilitation within cardiac care programs for older patients with cardiovascular disease.	Eur Geriatr Med 2024;15.	Original Article
79	藤本 茂	神経内科	Project Team for the Equalization and Standardization of Acute Stroke Rehabilitation. A nationwide survey for the provision of acute stroke rehabilitation in Japan: initial dose and weekend/holiday rehabilitation.	J Stroke Cerebrovasc Dis 2024; 33.	Original Article
80	藤本 茂	神経内科	Impact of the COVID-19 Pandemic on Acute Stroke Rehabilitation in Japanese Primary Stroke Centers: A Nationwide Cross-Sectional Study Using a Web-based Questionnaire Survey.	Eur Neurol 2024; 87.	Original Article
81	藤本 茂	神経内科	Untreated and uncontrolled hypertension in Japanese patients with spontaneous intracerebral hemorrhage.	Hypertens Res 2025; 48.	Original Article
82	藤本 茂	神経内科	Impact of Tailored Multidisciplinary Cardiac Rehabilitation on Patients With Cardiovascular Diseases and Multimorbidity in Convalescent Rehabilitation Hospitals in Japan –A Multicenter, Prospective Observational Study–.	Circ Resp 2025; 7.	Original Article
83	藤本 茂	神経内科	P2Y12Reaction Units With Prasugrel in Acute Large Artery Atherosclerosis and Transient Ischemic Attack:An Open-Label Randomized Controlled Study,ACUTE-PRAS	Circulation Journal	Original Article
84	Satoh M, Nakajima T, Ohtani K, Oguma H, Gomi A, Kawai K.	脳神経外科	Chronic Subdural Hematoma after Endoscopic Third Ventriculostomy for Chronic Obstructive Hydrocephalus: A Case Report.	NMC Case Rep J. 2024 Jul 27;11:201–206.	Case report
85	Yagisawa T, Ibayashi K, Kuroda R, Koyama S, Kanda Y, Fukuda Y, Shirai K, Kawata H, Kunii N, Kawai K	脳神経外科	De novo primary malignant lymphoma of the dura following recurrent episodes of subdural abscess presenting as chronic subdural hematoma: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2024 Jul 22;8(4):CASE24153.	Case report
86	井林 賢志, 國井 尚人, 川合 謙介	脳神経外科	迷走神経刺激療法	臨床精神医学 2024, 53, 891–898.	Original Article
87	大谷 啓介, 川合 謙介	脳神経外科	てんかんとリハビリテーション：自動車運転	総合リハビリテーション 2024, 52, 271–278.	Original Article
88	Tetsu Akimoto	内科学講座 腎臓内科学部門	Brain atrophy in patients on peritoneal dialysis treatment	Hypertens Res.2024 Apr;47(4):981–983.	Original Article
89	Maki Asakura-Kinoshita , Takahiro Masuda , Kentaro Oka 他	内科学講座 腎臓内科学部門	Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitor Combined with Conventional Diuretics Ameliorate Body Fluid Retention without Excessive Plasma Volume Reduction	Diagnostics (Basel). 2024 Jun 5;14(11):1194.	Original Article
90	Erika Hishida , Daisuke Nagata	内科学講座 腎臓内科学部門	Angiotensin Receptor–Nephrilysin Inhibitor for Chronic Kidney Disease: Strategies for Renal Protection	Kidney Blood Press Res. 2024;49(1):916–932.	Review
91	Takahiro Masuda , Daisuke Nagata	内科学講座 腎臓内科学部門	Glomerular pressure and tubular oxygen supply: a critical dual target for renal protection	Hypertens Res.2024 Dec;47(12):3330–3337.	Review
92	Takahiro Masuda , Masahide Yoshida , Tatsushi Onaka 他	内科学講座 腎臓内科学部門	Water and sodium conservation response induced by SGLT2 inhibitor ipragliflozin in Dahl salt-sensitive hypertensive rats	Hypertens Res.2024 Nov;47(11):3173–3181.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
93	Shigeaki Muto , Kazumasa Moriwaki , Daisuke Nagata 他	内科学講座 腎臓内科学部門	Axial heterogeneity of superficial proximal tubule paracellular transport in mice	Am J physiol Renal physiol.2024 Dec 1;327(6):F1067–F1078.	Original Article
94	Daisuke Nagata , Erika Hishida	内科学講座 腎臓内科学部門	Elucidating the complex interplay between chronic kidney disease and hypertension	Hypertens Res.2024 Dec;47(12):3409–3422.	Review
95	Kazuho Oe , Yohei Koyashiki , Shin-Ichi Takeda	内科学講座 腎臓内科学部門	Marked vascular calcification in a patient on hemodialysis	Clin Exp Nephrol. 2025 Jan;29(1):123–124. doi: 10.1007/s10157-024-02547-x. Epub 2024 Aug 22.	Original Article
96	Kazutoshi Ono , Akito Maeshima , Izumi Nagayama 他	内科学講座 腎臓内科学部門	Urinary Epidermal Growth Factor Level as a Noninvasive Indicator of Tubular Repair in Patients with Acute Kidney Injury	Diagnostics(Basel).2024 Apr 30;14(9):947.	Original Article
97	Kazutoshi Ono , Takahiro Masuda , Yuko Ono 他	内科学講座 腎臓内科学部門	Severe Acute Interstitial Nephritis Induced by α -glucosidase Inhibitor Miglitol in an Elderly Patient with Type 2 Diabetic Nephropathy	Intern Med.2024 Oct 15;63(20):2827–2831.	Case report
98	Oho Tsunematsu , Shin-Ichi Takeda , Mitsutaka Yamaguchi 他	内科学講座 腎臓内科学部門	Constrictive Pericarditis in a Hemodialysis Patient Who Presented with Rapidly Progressive Pericardial Calcification: A Diagnostic Challenge – A Case Report	Case Rep Nephrol Dial.2025 Feb 11;15(1):33–40.	Original Article
99	Shimbo M, Nojyua K, Yonekura Y, Nagahama M, Komatsu K, Endo F, Ohyama T, Sakuma Y, Nakayama M, Iwami D, Yagisawa T, Hattori K	腎臓外科	Computed Tomography Renal Volumetry Better Predicts Postoperative Donor Renal Function in Live Kidney Donor Transplantation than Renal Scintigraphy	A Comparative Study Urologia Internationalis Urol Int 2024;108:73–79 DOI: 10.1159/000535629	Original Article
100	Nakao T, Sakamoto S, Shimizu S, Fukuda A, Uchida H, Yanagi Y, Komine R, Kodama T, Ninomiya A, Yamada M, Ono H, Nosaka S, Horikawa R, Kasahara M.	腎臓外科	The Impact of Early Indication of Living Donor Liver Transplantation on the Outcomes of Patients With Propionic Acidemia: A Single-Center Experience	Pediatr Transplant. 2024 Dec;28(8):e14886.	Original Article
101	Nishida S, Ishima T, Kimura N, Iwami D, Nagai R, Imai Y, Aizawa K	腎臓外科	Metabolomic Profiling of Mice with Tacrolimus-Induced Nephrotoxicity: Carnitine Deficiency in Renal Tissue,Biomedicines	2024Feb26;12(3):521.doi:10.3390/biomedicine12030521	Original Article
102	Sasaki H, Tanabe T, Tsuji T, Hotta K	腎臓外科	Mechanism and treatment for chronic antibody-mediated rejection in kidney transplant recipients	Int J Urol.2023 Jun 12.doi: 10.1111/iju.15197.	Original Article
103	Ikeda T, Sato, K, Kawaguchi, S 他	血液科	Forodesine Enhances Immune Responses through Guanosine-Mediated TLR7 Activation while Preventing Graft-versus-Host Disease	J Immunol.2024; 212:143–153,	Original Article
104	Minakata D, Uchida, T, Nakano, A 他	血液科	Characteristics and prognosis of patients with COVID-19 and hematological diseases in Japan: a cross-sectional study	Int J Hematol. 2024;119:183–195	Original Article
105	Nagayama T, Fujiwara, S I, Tominaga, R 他	血液科	Association of the pre-transplant CD4/CD8 ratio with the prognosis following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Leuk Lymphoma. 2024; 65:1350–1356	Original Article
106	Nakano H, Sato, K, Izawa, J 他	血液科	Phase 2 trial of induction with dasatinib and consolidation with hyper-CVAD plus dasatinib followed by allografting for Ph-positive acute lymphoblastic leukemia in adults	Leuk Res.2024;137:107438	Original Article
107	Oh I, Hatano, K, Ikeda, T 他	血液科	Tumor lysis syndrome in induction therapy for acute myeloid leukemia before the rasburicase era	Int J Hematol.2024;119:660–666	Original Article
108	Toda Y, Ashizawa, M, Murahashi, R 他	血液科	Tumor lysis syndrome in induction therapy for acute myeloid leukemia before the rasburicase era	Int J Hematol. 2024;119:660–666	Original Article
109	Toda Y, Ohmine, K, Sano, N 他	血液科	T-ALL presenting with i-TLP-like indolent clinical course with repeated spontaneous regressions	Pathol Res Pract. 2024;263:155600,	Case report
110	Yamamoto C, Minakata, D, Yokoyama, D 他	血液科	Cost-Effectiveness of Anti-BCMA Chimeric Antigen Receptor T Cell Therapy in Relapsed/Refractory Multiple Myeloma	Transplant Cell Ther.2024;30:118 e111–118 e115,	Original Article
111	Yoshinobu Kanda	血液科	Fine-tuning of haploidentical haematopoietic stem cell transplantation	Lancet Haematol. 2025 Mar;12(3):e165–e167. doi: 10.1016/S2352-3026(25)00012-2. Epub 2025 Feb 4.	Review
112	Takeuchi Y, Murayama Y, Aita Y, et al	内分泌代謝科	GR-KLF15 pathway controls hepatic lipogenesis during fasting.	FEBS J 291:259–271, 2024.	Original Article
113	Shirahama Y, Kokuzawa A, Yamauchi Y, et al.	アレルギー・リウマチ科	Cluster analysis defines four groups of Japanese patients with adult-onset Still's disease.	Mod Rheumatol. 2024 Oct; 34: 1213–20	Original Article
114	Akahane K, Hatanaka S, Kawahara M, Endo M, Fukuda Y, Okada K, Ogawa K, Takahashi S, Nakamura M, Saito M, Oyama-Manabe N, Shirai K	放射線治療科	Recurrence Pattern, Treatment Modalities, and Prognostic Factors After Definitive Chemoradiotherapy for Recurrent Esophageal Cancer.	J Gastrointest Cancer. 2024;55(2):809–819.	Original Article
115	Endo M, Takahashi S, Fukuda Y, Okada K, Ogawa K, Nakamura M, Kawahara M, Akahane K, Murakami E, Shibayama C, Onaga R, Nagatomo T, Kanazawa T, Nishino H, Mori H, Shirai K	放射線治療科	The association between initiation weekday of radiotherapy and local control in stage I glottic carcinoma: a retrospective analysis	J Radiat Res. 2024;65(6):798–804.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
116	Endo S, Nagata K, Utano K, et al.	放射線治療科	Development and validation of computer-aided detection for colorectal neoplasms using deep learning incorporated with computed tomography colonography.	BMC Gastroenterol .25, 149 (2025)	Original Article
117	Fujii H, Matsuki M, Hamakawa T, Toda Y, Fujii N, Masuoka S, Nakamata A, Chiba E, Ishii K, Mori H.	画像診断科	Choroid plexus and pituitary gland hemochromatosis induced by transfusional iron overload: Two case reports	Radiol Case Rep. 2024;19(5):1666-1670.	Case report
118	Isozaki T, Matsuki M, Yamamoto A, Takahashi S, Mori H.	画像診断科	A Case of Solid-Appearing Struma Ovarii: Pitfall in the Assessment Using Ovarian-Adnexal Reporting and Data System Magnetic Resonance Imaging Score.	Cureus. 2024;16(4):e58176.	Case report
119	Kikuchi T, Hanaoka S, Nakao T, Nomura Y, Mori H, Yoshikawa T	画像診断科	Impact of CT-determined low kidney volume on renal function decline: a propensity score-matched analysis	Insights Imaging. 2024;15(1):102.	Original Article
120	Kikuchi T, Hanaoka S, Nakao T, Takenaga T, Nomura Y, Mori H, Yoshikawa T	画像診断科	Synthesis of Hybrid Data Consisting of Chest Radiographs and Tabular Clinical Records Using Dual Generative Models for COVID-19 Positive Cases	J Imaging Inform Med. 2024;37(3):1217-1227.	Original Article
121	Kikuchi T, Nakao T, Nakamura Y, Hanaoka S, Mori H, Yoshikawa T	画像診断科	Toward Improved Radiologic Diagnostics: Investigating the Utility and Limitations of GPT-3.5 Turbo and GPT-4 with Quiz Cases	AJNR Am J Neuroradiol. 2024;45(10):1506-1511	Original Article
122	18)Kojima S, Matsuki M, Fujii N, Kunitomo N, Nakamata A, Fujii H, Yokoyama K, Nakaya M, Watanabe H, Kamioka M, Watanabe T, Mori H	画像診断科	Response to Letter IM-2289-23-C.R2: Pulmonary Vein Stenosis after Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: An Early Diagnosis Using Unenhanced Computed Tomography	Intern Med. 2024;63(20):2873.	Letter
123	Nakamata A, Matsuki M, Otake Y, Himoto Y, Kaneko Y, Nakaya M, Sudo N, Kikuchi T, Watanabe Y, Kobayashi R, Masuoka S, Kunitomo N, Fujii H, Hamamoto K, Mori H	画像診断科	Magnetic resonance imaging features of complete androgen insensitivity syndrome in comparison to Mayer-Rokitansky-Küster-Hauser syndrome.	Abdom Radiol (NY). 2024;49(9):3220-3231.	Original Article
124	Nakamata A, Matsuki M, Watanabe Y, Kobayashi R, Fujii N, Kunitomo N, Otake Y, Fujii H, Hamamoto K, Mori H	画像診断科	Imaging Features of Uncommon Entities That Manifest with Torsion.	Radiographics. 2024;44(7):e230101.	Original Article
125	Otake Y, Ugajin A, Takahashi H, Tanaka Y, Fujii H, Matsuki M, Mori H.	画像診断科	Prediction of antenatal bleeding and preterm deliveries using placental magnetic resonance imaging in patients with placenta previa	Jpn J Radiol. 2024;42(6):630-638.	Original Article
126	41)Shirai K, Aoki S, Endo M, Takahashi Y, Fukuda Y, Akahane K, Musha A, Sato H, Wakatsuki M, Ishikawa H, Sasaki R.	放射線治療科	Recent developments in the field of radiotherapy for the management of lung cancer.	Jpn J Radiol. 2025;43(2):186-199	Review
127	Shinichi Imafuku , Yukari Okubo , Yayoi Tada他	皮膚科	Apomorphine Suppresses the Progression of Steatohepatitis by Inhibiting Ferroptosis	Antioxidants (Basel)/13(7):805,2024	Original Article
128	Shinichi Imafuku , Yukari Okubo , Yayoi Tada 他	皮膚科	Deucravacitinib, an oral, selective, allosteric tyrosine kinase 2 inhibitor, in Japanese patients with moderate to severe plaque, erythrodermic, or generalized pustular psoriasis: Efficacy and safety results from an open-label, phase 3 trial	The Journal of Dermatology・51(3):365-379,2024	Original Article
129	Jin M, Komine M, Tsuda 他	皮膚科	Interleukin-33 Deficiency Protects the Skin From Ulcer Formation in an Ischemia-Reperfusion-Induced Decubitus Mouse Model	Experimental Dermatology/33(11):e70014,2024	Original Article
130	Kido-Nakahara M, Onozuka D, Izuhara K他	皮膚科	Biomarkers and patient-related factors associated with clinical outcomes in dupilumab-treated atopic dermatitis	Journal of Allergy and Clinical Immunology: Global/3(4)100317,2024	Others
131	Kido-Nakahara M, Onozuka D, Izuhara K他	皮膚科	Exploring patient background and biomarkers associated with the development of dupilumab-associated conjunctivitis and blepharitis	Allergology International/73(2):332-334,2024	Letter
132	Maeda D, Matsue Y, Kagiya N他	皮膚科	Lymphocyte-to-C-reactive protein ratio and score in patients with heart failure: Nutritional status, physical function, and prognosis	European journal of preventive cardiology/11(6):2660-2668,2024	Original Article
133	Mamitaro Ohtsuki , Yukari Okubo , Hidehisa Saeki他	皮膚科	Safety and effectiveness of apremilast in Japanese patients with psoriatic disease: Results of a post-marketing surveillance study	The Journal of Dermatology/51(7):950-963,2024	Original Article
134	Sashikawa-Kimura M, Takada M, Hossain MR他	皮膚科	Overexpression of the β -Subunit of Acid Ceramidase in the Epidermis of Mice Provokes Atopic Dermatitis-like Skin Symptoms	International Journal of Molecular Sciences/25(16)8737,2024	Original Article
135	Sugiura K, Fujita H, Komine M他	皮膚科	The role of interleukin-36 in health and disease states	J Eur Acad Dermatol Venereol/38(10):1910-1925,2024	Original Article
136	Yayoi Tada , Mayumi Komine , Yukari Okubo他	皮膚科	Treatment patterns of systemic drug use in Japanese patients with plaque psoriasis: A retrospective chart review	The Journal of Dermatology/51(2):210-222,024	Original Article
137	Sugawara R, Watanabe H, Taki N et.al	整形外科	Radiation exposure in pediatric patients with early onset scoliosis: A longitudinal single-center study	J Orthop Sci. 2024 Jul;29(4):1103-1107	Original Article
138	Sasanuma H, Takahashi T, Kawai S et.al	整形外科	Morphological and histological evaluation of the tendon-bone junction in porcine shoulders to create a rotator cuff tear and repair model	J Orthop Sci. 2024 Nov;29(6):1521-1527	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
139	Ando J, Takahashi T, Matsumura T	整形外科	Biomechanical comparisons of plate placement for medial tibial plateau fractures (Schatzker type IV): A biomechanical study using porcine tibias	Injury. 2024 Jun;55(6):111158	Original Article
140	Handa M, Takahashi T, Takeshita K	整形外科	Biomechanical comparison of the tensile strength of fixation implants used for pull-out repair of medial meniscus posterior root tear	SICOT J. 2024;10:40	Original Article
141	Hiyama S, Takahashi T, Handa M	整形外科	Flexion contracture can cause component mismatch in the Prophecy® preoperative patient-specific instrumentation for Evolution® medial-pivot knee system	SICOT J. 2024;10:12	Original Article
142	Iguchi M, Takahashi T, Ae R	整形外科	Comparison of postoperative clinical outcomes and knee stability of cruciate-retaining total knee arthroplasty [...] navigation technique	J Exp Orthop. 2024 Jul 5;11(3):e12084	Original Article
143	Nibe Y, Takahashi T, Matsumura T	整形外科	Effect of plate design on maintenance of anterior and posterior gaps and posterior tibial slope after cyclic loading in medial open-wedge high tibial osteotomy	J Exp Orthop. 2024 Jun 19;11(3):e12036	Original Article
144	Nibe Y, Takahashi T, Hai H	整形外科	Comparative biomechanical analysis of tibial posterior slope in medial open wedge high tibial osteotomy vs. distal tuberosity osteotomy	SICOT J. 2024;10:41	Original Article
145	Saitsu A, Takahashi T, Kakiage H	整形外科	Effects of an untreated medial meniscal ramp lesion on histological deterioration findings of the medial meniscus	J Exp Orthop. 2024 Sep 27;11(3):e70027	Original Article
146	Takahashi T, Hatayama K, Nishino M	整形外科	Comparison of postoperative clinical outcome in medial-pivotal and gradually reducing radius design cruciate-retaining total knee arthroplasty	J Exp Orthop. 2024 Jan 19;11(1):e12002	Original Article
147	Yamanaka T, Matsumura T, Ae R	整形外科	Risk of peri implant femoral fracture after cephalomedullary nailing in older patients with trochanteric fractures	Injury. 2024 Jun;55(6):111206	Original Article
148	Yamanaka T, Matsumura T, Ae R	整形外科	AO/OTA 31A3 fractures and postoperative complications in older patients	J Orthop Sci. 2024 Jul;29(4):1073-1077	Original Article
149	Sugawara R, Ae R, Hiyama S	整形外科	Perceptions of Orthopedic and Musculoskeletal Practice Among Primary Care Physicians in Japan	Cureus. 2024 Dec 23;16(12):e76236	Original Article
150	Kubo T, Takahashi T, Kimura Y	整形外科	Relationship between the location of the popliteal artery and the tibial osteotomy plane in patients with [...] unicompartmental knee arthroplasty	SICOT-J. 2025;11:1	Original Article
151	Sekiya H, Takatoku K, Okami H	整形外科	Bone marrow lesion and medial meniscus extrusion width changes following arthroscopic partial meniscectomy	J Orthop Surg Res. 2025 Jan 31;20(1):123	Original Article
152	Takahashi T, Sasanuma H, Takeshita K	整形外科	Distribution analysis of structural properties of native porcine humerus-rotator cuff-scapular complex	J Exp Orthop. 2025 Feb 10;12(1):e70164	Original Article
153	Takahashi T, Thaker S, Lettieri G	整形外科	Reliability of Slice-Encoding for Metal Artifact Correction (SEMAC) MRI to Identify Prosthesis Loosening	Indian J Radiol Imaging. 2025	Original Article
154	Hiyama S, Takahashi T, Ando J	整形外科	Impact of screw reinsertion on osteosynthesis stability in Schatzker IV tibial plateau fractures	SICOT-J. 2025;11:11	Original Article
155	Sowa Y, Sawai S, Yamamoto K, et al.	形成外科	Micronized cellular adipose matrix purified with a bladed connector contains abundant functional adipose stem cells	Tissue Cell	Original Article
156	Shimizu Y, Edward, Ntege H, Inoue Y, et al.	形成外科	Optimizing mesenchymal stem cell extracellular vesicles for chronic wound healing: Bioengineering, standardization, and safety.	Regenerative Therapy	Review
157	Mori M, Saito N, Shirado T, et al.	形成外科	Human Adipose-Derived Endothelial Progenitor Cells Accelerate Epithelialization of Radiation Ulcers in Nude Mice	Plast Reconstr Surg	Original Article
158	Hirata Yuta	消化器一般移植外科	Targeted Plasma Bile Acid Metabolomic Analysis in Metabolic Dysfunction-Associated Steatohepatitis and Alcoholic Hepatitis	Biomedicines.2024 Dec31	Original Article
159	Naoya Kasahara	消化器一般移植外科	Controlled release of hydrogel-encapsulated mesenchymal stem cells-conditioned medium promotes functional liver regeneration after hepatectomy in metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease	Stem Cell Res Ther. 2024 Nov 4	Original Article
160	Naoya Kasahara	消化器一般移植外科	Dietary polyamines promote intestinal adaptation in an experimental model of short bowel syndrome	Sci Rep. 2024 feb 26	Original Article
161	Takumi Teratani	消化器一般移植外科	Improved Preservation of Rat Small Intestine Transplantation Graft by Introduction of Mesenchymal Stem Cell-Secreted Fractions	Transpl Int. 2024 Jun 19	Original Article
162	Ito C Suzuki H	産婦人科	Placental Insertion into the cervix with cervical shortening as a clinical sign to suspect cervic-ismic pregnancy: a case report and literature review.	Obstet Gynecol. 2023 Feb 6:2023:1816955.	Case report
163	Ito T Takahashi H Horie K	産婦人科	Confined placental mosaicism with trisomy 13 complicated by severe preeclampsia: A case report and literature review.	J Obstet Gynaecol Res. 2024;50:1737-1741.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
164	Jwa SC	産婦人科	Variation in diagnostic methods, criteria, and treatment for chronic endometritis: A nationwide survey in Japan.	J Obstet Gynaecol Res. 2024;50:1479–1484.	Original Article
165	Jwa SC	産婦人科	Assisted reproductive technology–associated risk factors for placenta accreta spectrum after vaginal delivery.	Sci Rep. 2024;14:7454.	Original Article
166	Jwa SC Takahashi H	産婦人科	Assisted reproductive technology–associated risk factors for retained products of conception	Fertil Steril. 2024;121:470–479.	Original Article
167	Jwa SC	産婦人科	Japan Association of O, Gynecologists Telemedicine Proof-of-Concept Home Blood Pressure Research G. Seasonal variation in home blood pressure during pregnancy and frequency of hypertensive disorders of pregnancy: a multicenter prospective study of home blood pressure measurements in pregnant women using information technology.	Hypertens Res. doi: 10.1038/s41440-024-01952-9.Epub 2024 Oct 23.	Original Article
168	Koyanagi T Fujiwara H Yamamoto K	産婦人科	Cervical cancer screening efficacy using SurePath,ThinPrep and conventional cytology: A large data set analysis from the Japan Cancer Society.	Cytopathology. 2024;35:770–775.	Original Article
169	Koyanagi T Saga Y Takahashi Y	産婦人科	Forced Vasohibin-1 Expression Increases Paclitaxel Sensitivity of Ovarian Cancer by Inhibiting Microtubule Activity.	Cancer Rep (Hoboken). 2024;7:e70100.	Original Article
170	Koyanagi T Saga Y Takahashi Y	産婦人科	The role of non-genomic actions of progesterone and its membrane receptor agonist in ovarian cancer cell death.	Cancer Rep (Hoboken). 2024;7:e1934.	Original Article
171	Matsubara S Takei Y	産婦人科	Revising a manuscript: Some hints on incorporating the reviewers' comments.	J Obstet Gynaecol Res. 2024;50:768–769.	Letter
172	Nagayama S Takahashi H	産婦人科	A novel variant in IFT122 associated with a severe phenotype of cranioectodermal dysplasia.	Congenit Anom (Kyoto). 2024;64:177–181.	Case report
173	Ogoyama M	産婦人科	Management strategy and experience of vasa previa in perinatal centers: A nationwide survey in Japan.	J Obstet Gynaecol Res. 2024. doi: 10.1111/jog.16189.	Original Article
174	Ogoyama M Okusa T Horie K	産婦人科	A transient fetal cyst at the thoracoabdominal border in early gestation preceding sac-type congenital diaphragmatic hernia.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2024;300:355–356.	Case report
175	Ohkuchi A	産婦人科	Inter-twin growth discordance in monozygotic twins as a novel risk factor for preeclampsia.	Hypertens Res. 2024 Dec 5. doi: 10.1038/s41440-024-02047-1.	Original Article
176	Ohkuchi A Suzuki H Otachi H	産婦人科	Isolated HELLP syndrome without hypertension or proteinuria exhibiting increases in serum levels of both PIGF and sFlt-1.	Hypertens Res in Preg. 2024;12:92–97.	Case report
177	Ohkuchi A	産婦人科	group of the PPROM-AZM study. A phase II, multicenter, nonblinded, randomized controlled trial for evaluating protective effects of ABPC/SBT plus, azithromycin versus erythromycin, in pregnant women with pPROM occurring at <28 weeks of gestation on the development of BPD in neonates:	Study protocol. PLoS One. 2024;19:e0304705.	Original Article
178	Ohkuchi A Takahashi K Hirashima C	産婦人科	Automated electrochemiluminescence immunoassay for serum PIGF levels in women with singleton pregnancy at 9–13 weeks of gestation predicts preterm preeclampsia: a retrospective cohort study.	Hypertens Res. 2024;47:1196–1207	Original Article
179	Ohkuchi A Suzuki H	産婦人科	Early-onset preeclampsia/gestational hypertension may be associated with a low incidence of cerebral palsy at 3 years old in singleton very low-birth-weight infants born at 28–31 weeks of gestation (EOPE-DQ study): a multi-center retrospective cohort study in 2013–2016.	Hypertens Res. 2024 Oct 8. doi: 10.1038/s41440-024-01929-8.	Original Article
180	Suzuki H Ohkuchi A Horie K	産婦人科	Clinical relevance of reversible cerebral vasoconstriction syndrome in pregnant women with posterior reversible encephalopathy syndrome: review of case reports in Japan.	Hypertens Res. 2024;47:1288–1297.	Letter
181	Takahashi H	産婦人科	Managing placenta previa with fetal risk in mind.	Clin Exp Obstet Gynecol. 2024;51:99.	Letter
182	Takahashi H Matsubara S	産婦人科	Work-style Reform: Considering not only residents but also senior staff.	JMA J. 2024;7:459–460.	Letter
183	Takahashi Y Taguchi M Tamura K	産婦人科	Increase in creatinine levels associated with niraparib maintenance therapy in ovarian cancer.	J Obstet Gynaecol Res. 2024;50:501–507.	Original Article
184	Takahashi Y Fujiwara H Yamamoto K	産婦人科	GOTIC-VTE Trial Investigators. Prevention of symptomatic pulmonary embolism for gynecologic malignancies with preoperative asymptomatic venous thromboembolism: GOTIC-VTE trial.	J Gynecol Oncol. 2024;35:e37.	Original Article
185	Takahashi Y Fujiwara H Yamamoto K	産婦人科	GOTIC-VTE Trial Investigators. Incidence and risk factors for venous thromboembolism in gynecological cancer: the GOTIC-VTE trial.	J Thromb Thrombolysis. 2024. doi: 10.1007/s11239-024-03055-1.	Original Article
186	Tamura K	産婦人科	Optimizing Timing of Intraperitoneal Chemotherapy to Enhance Intravenous Carboplatin Concentration.	Cancers (Basel). 2024;16:2841.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
187	Wada Y Takei Y	産婦人科	Treatment strategies for pelvic organ prolapse and postoperative outcomes in older women with long-term care needs: A population-based retrospective cohort study.	Int J Gynaecol Obstet. 2024;166:1323-1329.	Original Article
188	Wada Y	産婦人科	Association between earthquakes and perinatal outcomes: A systematic review and meta-analysis.	Int J Gynaecol Obstet. 2024;166:228-237.	Review
189	Wada Y Takahashi H Ogoyama M	産婦人科	Association between adenomyosis and placenta accreta and mediation effect of assisted reproductive technology on the association: A nationwide observational study	Int J Gynaecol Obstet. 2024;167:360-367.	Original Article
190	Wada Y Takahashi H Ogoyama M	産婦人科	The association between fetomaternal hemorrhage and umbilical cord abnormalities: A nationwide observational study.	Taiwan J Obstet Gynecol. (in press)	Original Article
191	Wada Y Takahashi H Ogoyama M	産婦人科	Uterine cervical conisation and chorioamnionitis: A nationwide observational study.	BJOG. 2024;131:977-984.	Original Article
192	Tomohiro Kameda,Toru Sugihara,Daisuke Obinata 他	泌尿器科	Androgen receptor and oboeglycin gene expression predicting prognosis of metastatic prostate cancer	Scientific Reports:2024: 14: 30654(オンライン)	Original Article
193	Amano Y, Matsubara D, Kihara A, Yoshimoto T, Fukushima N, Nishino H, Mori Y, Niki T	耳鼻咽喉科	The significance of Hippo pathway protein expression in oral squamous cell carcinoma	Front Med 11: 1247625, 2024.	Original Article
194	Arai S, Igarashi T, Goto H, Kashima K, Sasaki T, Sakaguchi M, Fukushima N, Fujii H, Nishino H, Ito M, Kanazawa T.	耳鼻咽喉科	Clinical course and vascular endothelial growth factor signaling system expression in maxillary angiosarcoma: A case report.	Science Progress. 2024, 107, 1-9	Case report
195	Arai S, Igarashi T, Goto H, Kashima K, Sasaki T, Sakaguchi M, Fukushima N, Fujii H, Nishino H, Ito M, Kanazawa T	耳鼻咽喉科	Clinical course and vascular endothelial growth factor signaling system expression in maxillary angiosarcoma: A case report.	Sci Prog 107: 368504241274022, 2024.	Case report
196	Hasegawa M, Amano Y, Kihara A, Matsubara D, Fukushima N, Takahashi H, Chikamatsu K, Nishino H, Mori Y, Yoshida N, Niki T	耳鼻咽喉科	Guanylate binding protein 5 is an immune-related biomarker of oral squamous cell carcinoma: A retrospective prognostic study with bioinformatic analysis.	Cancer Med 13: e7431, 2024.	Original Article
197	Imamura Y, Kiyota N, Tahara M, Kodaira T, Hayashi R, Nishino H, Asada Y, Mitani H, Iwae S, Nishio N, Onozawa Y, Hanai N, Ohkoshi A, Hara H, Monden N, Nagaoka M, Minami S, Kitabayashi R, Sasaki K, Homma A:	耳鼻咽喉科	Effect of acute kidney injury and overall survival in patients with postoperative head and neck cancer who received chemoradiotherapy with cisplatin: A supplementary analysis of the phase II/III trial of JCOG1008.	Cancer Med 13: e70235, 2024.	Original Article
198	Imamura Y, Kiyota N, Tahara M, Kodaira T, Hayashi R, Nishino H, Asada Y, Mitani H, Iwae S, Nishio N, Onozawa Y, Hanai N, Ohkoshi A, Hara H, Monden N, Nagaoka M, Minami S, Kitabayashi R, Sasaki K, Homma A:	耳鼻咽喉科	kidney injury in patients with head and neck cancer receiving chemoradiotherapy: A re-analysis of a phase II/III JCOG1008 trial.	Oral Oncol 154: 106868, 2024.	Original Article
199	Kashima K, Igarashi T, Fujii H, Fukushima N, Nishino H, Kanazawa T	耳鼻咽喉科	Horizontal partial laryngectomy for laryngeal neuroendocrine tumor: A case report.	Int J Surg Case Rep 124: 110356, 2024.	Case report
200	Kunieda C, Nin F, Ohashi T, Hosokawa K, Watanabe Y, Ogawa T, Mori T, Kanazawa T	耳鼻咽喉科	Botulinum toxin injection for abductor spasmodic dysphonia under cervical ultrasonography guidance	Auris Nasus Larynx. 2024;; 51: 361-364. doi: 10.1016/j.anl.2023.09.008	Original Article
201	Kurakami, K., Kanazawa, T., Hasegawa, T., Araki, N., Honda, N., Kashima, K., Matsuyama, K., Ito, M., Kakehata, S., & Watanabe, Y.	耳鼻咽喉科	(2025). Retrospective examination of the prevalence of laryngeal microwebs associated with benign vocal fold lesions under microlaryngosurgery. Journal of Voice.	Advance online publication. https://doi.org/10.1016/j.jvoice.2025.05.023	Original Article
202	Masao Noda, Hidekane Yoshimura, Takuya Okubo, Ryota Koshu, Yuki Uchiyama, Akihiro Nomura, Makoto Ito, Yutaka Takumi	耳鼻咽喉科	Feasibility of Multimodal Artificial Intelligence Using GPT-4 Vision for the Classification of Middle Ear Disease	Qualitative Study and Validation.. *JMIR AI* 3:e58342, 2024.	Original Article
203	Masao Noda, Ryota Koshu, Dias Mari Shimada, Chortip Sajjaviyaya, Chizu Saito, Makoto Ito, Taka-aki Koshimizu	耳鼻咽喉科	: A convolutional neural network model detecting lasting behavioral changes in mice with kanamycin-induced unilateral inner ear dysfunction	*Heliyon* 10:e38938, 2024.	Original Article
204	Masao Noda, Ryota Koshu, Hisashi Sugimoto, Tomokazu Yoshizaki, Akihiro Nomura and Makoto Ito	耳鼻咽喉科	Outpatient characteristics in a pediatric otolaryngology department during COVID-19 pandemic: A retrospective study	*Science Progress* 107:1-15, 2024	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
205	Masao Noda, Ryota Koshu, Mari Dias, Chizu Saito, Makoto Ito	耳鼻咽喉科	Endoscopic Powered Intracapsular Tonsillectomy and Adenoidectomy in Pediatric Obstructive Sleep Apnea With High-Risk Comorbid Disease Conditions: A Case Series..	*Cureus Journal of Medical Science* 16:e61621, 2024.	Case report
206	Masao Noda, Ryota Koshu, Mari Dias, Ryotaro Onaga, Makoto Ito	耳鼻咽喉科	Intact Transmastoid Ossicle Swaying Technique to Preserve Hearing in Pediatric Facial Nerve Decompression Surgery:A Case Report..	*Cureus Journal of Medical Science* 16:e58269, 2024	Case report
207	Masao Noda, Ryota Koshu, Yuji Takaso, Chortip Sajjaviriya, Makoto Ito, Takaaki Koshimizu	耳鼻咽喉科	Role of Facial Nerve Reconstruction With Anastomosis and Polyglycolic Acid Tube in Accelerating Functional Recovery After Axotomy in the Rat Facial Nucleus..	*Cureus Journal of Medical Science* 16:e57326, 2024.	Original Article
208	Masao Noda, Takayoshi Ueno, Ryota Koshu, Yuji Takaso, Mari Dias Shimada, Chizu Saito, Hisashi Sugimoto, Hiroaki Fushiki, Makoto Ito, Akihiro Nomura, Tomokazu Yoshizaki	耳鼻咽喉科	Performance of GPT-4V in Answering the Japanese Otolaryngology Board Certification Examination Questions: Evaluation Study.	*JMIR Medical Education* 10:e57054, 2024.	Original Article
209	Miura, Y., Noda, M., Koshu, R. & Ito, M	耳鼻咽喉科	(2024). Stapedotomy for pediatric middle ear anomalies with facial nerve bifurcation: A case report	Cureus, 16(7), e65391. https://doi.org/10.7759/cureus.65391	Case report
210	Noda Y, Kometani M, Nomura A, Noda M, Oka R, Kadono M, Yoneda T.	耳鼻咽喉科	The usefulness of an application-supported nutritional intervention on non-high-density lipoprotein cholesterol in people with a risk of lifestyle-related diseases.	*PLOS Digit Health* Dec 6;3(12):e0000648, 2024.	Original Article
211	Noda, M., Koshu, R., Dias, M., Saito, C., & Ito, M	耳鼻咽喉科	(2024). Endoscopic Powered Intracapsular Tonsillectomy and Adenoidectomy in Pediatric Obstructive Sleep Apnea With High-Risk Comorbid Disease Conditions: A Case Series	Cureus, 16(6).	Case report
212	Noda, M., Koshu, R., Shimada, D. M., Sajjaviriya, C., Saito, C., Ito, M., & Koshimizu, T. A.	耳鼻咽喉科	A convolutional neural network model detecting lasting behavioral changes in mice with kanamycin-induced unilateral inner ear dysfunction	Heliyon, 10(19).	Original Article
213	Noda, M., Ueno, T., Koshu, R., Takaso, Y., Shimada, M. D., Saito, C., ... & Yoshizaki, T.	耳鼻咽喉科	(2024). Performance of GPT-4V in answering the Japanese otolaryngology board certification examination questions: evaluation study	JMIR Medical Education, 10, e57054.	Original Article
214	Onaga R, Enokida T, Okano S, Fujisawa T, Tanaka N, Hoshi Y, Kishida T, Tanaka H, Sato M, Takeshita N, Kuboki R, Nishino H, Ito M, Tahara M	耳鼻咽喉科	Clinical impact of a dose-escalation strategy for lenvatinib in differentiated thyroid cancer	Int J Clin Oncol 29: 1435–1443, 2024.	Original Article
215	Shimizu H, Kodaira T, Kiyota N, Hayashi R, Nishino H, Asada Y, Mitani H, Hirayama Y, Onozawa Y, Nishio N, Hanai N, Ohkoshi A, Hara H, Monden N, Nagaoka M, Minami S, Fujii T, Tanaka K, Homma A, Yoshimoto S, Oridate N, Omori K, Ueda T, Okami K, Uemura H, Shiga K, Nakahira M, Asakage T, Saito Y, Sasaki K, Kitabayashi R, Ishikura S, Nishimura Y, Tahara M	耳鼻咽喉科	Incidence and risk factors associated with the development of hypothyroidism after postoperative chemoradiotherapy for head and neck cancer patients with high-risk features:	Supplementary analysis of JCOG1008. Oral Oncol 157: 106976, 2024.	Original Article
216	Tsunoda, R., Dobashi, Y., Noda, M., Fushiki H	耳鼻咽喉科	New Fresnel lens loupe for nystagmus observation suitable for use by medical staff in emergency departments	*Int J Emerg Med* 17:, 2024	Original Article
217	Watanabe K, Nishio SY, Usami SI	耳鼻咽喉科	Deafness Gene Study Consortium. The prevalence and clinical features of MYO7A- related hearing loss including DFNA11, DFNB2 and USH1B	Sci Rep. 2024 Apr 9;14(1):8326.	Original Article
218	Watanabe Y, Fujii H, Yamamoto S, Masuoka S, Kobayashi R, Fujii N, Nakamata A, Kanazawa T, Matsuki M, Mori H	耳鼻咽喉科	Parotid gland MALT lymphoma with amyloid deposition, challenges in preoperative diagnosis	A case report Radiology Case Reports. 2024, 19, 6141–6146	Case report
219	Yuki Miura, Masao Noda, Ryota Koshu, Makoto Ito	耳鼻咽喉科	Stapedotomy for Pediatric Middle Ear Anomalies With Facial Nerve BifurcationA Case Report..	*Cureus Journal of Medical Science* 16:e65391, 2024.	Case report
220	Aoyagi, J., Kanai, T., Ito, T. 他	小児科学	Trends of bone mineral density and bone quality in a paediatric kidney transplant recipient	Nephrology (Carlton) 29: 955–959, 2024.	Original Article
221	Kanai, T., Ito, T., Saito, T.他	小児科学	Inter- and intra-individual differences regarding SARS-CoV-2 and influenza vaccination in pediatric kidney transplant recipients	Medicine (Baltimore):103(27): e38809. 2024 Jul 5.	Case report
222	Kobayashi, M., Miyauchi, A., Jimbo, EF.他	小児科学	Synthetic aporphine alkaloids are potential therapeutics for Leigh syndrome.	Sci Rep 14(1):11561. doi: 10.1038/s41598- 024-62445-w.PMID: 38773300, 2024 May 21.	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
223	Kurane, K., Lin, N., Dan, I.他	小児科学	Visualizing changes in cerebral hemodynamics in children with ADHD who have discontinued methylphenidate	A pilot study on using brain function for medication discontinuation decisions. Brain Dev 46: 373–382, 2024.	Letter
224	Kurane, K., Wakae, K., Yamagishi, H.他	小児科学	The first case of hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome with fulminant hypercytokinemia associated with pediatric COVID-19.	Brain Dev 46(1):44–48,2024 .doi:10.1016/j.braindev.2023.08.008. Epub 2023 Sep 18. PMID: 37730452.	Others
225	Kurokawa, Y., Kojima, K., Ishii, T.他	小児科学	A female patient with paramyotonia congenita. Part 2	Contribution of SCN4A to the developing brain. Brain and Development Case Report:2(4):100042, 2024.	Case report
226	Kurokawa, Y., Kojima, K., Ishii, T.他	小児科学	A female patient with paramyotonia congenita. Part 1	Combination therapy of lacosamide and topiramate. Brain and Development Case Reports 2(4):100041,2024.	Case report
227	Matsubara, D.	小児科学	Identify Human- vs AI-Generated Abstracts: What Next? Identification of Human-Generated vs AI-Generated Research Abstracts by Health Care Professionals .	JAMA Pediatr. 178(6):625–626, 2024. JAMA Ped 31 May 2024	Others
228	Matsubara, D., Akutsu, M., Ota, T.	小児科学	Pediatric Acute Lymphangitis Manifesting as Skip Skin Lesions.	J Pediatr:114373,2024. doi: 10.1016/j.jpeds.2024 Oct 21.	Case report
229	Matsubara, D., Matsubara, S.	小児科学	ChatGPT-Generated Letters: Hypothetical Opinion from a Girl and Editor’s Reply on Child Life Specialist in Japan.	J Pediatr Surg.:161650, 2024 Jul 26. doi: 10.1016/j.jpedsurg.07.035, 2024.	Letter
230	Matsubara, D., Matsubara, Y., Ayusawa, M.他	小児科学	Nationwide Survey of Multisystem Inflammatory Syndrome in Children Associated with Coronavirus Disease 2019 in Japan.	J Clin Immunol 45(1):51,2024. doi: 10.1007/s10875-024-01845-z. 2024 Nov 30.	Original Article
231	Matano, M., Katayama, H., Sekine, T.他	総合周産期母子医療センター	First evaluation of Eyberg Child Behavior Inventory for foster children in Japan.	Pediatrics international 66(1): e15761, 2024.	Original Article
232	Matano, M., Kurane, K., Wakabayashi, K.他	総合周産期母子医療センター	Efficacy of parent-child interaction therapy for children born premature.	Pediatrics international 66(1): e15742, 2024.	Original Article
233	Miyauchi, A., Watanabe, C., Yamada, N.他	小児科学	Apomorphine is a potent inhibitor of ferroptosis independent of dopaminergic receptors.	Sci Rep 14: 4820, 2024.	Original Article
234	Nagai, K., Mitani, T., Kato, M.他	小児科学	Successful living-donor liver transplantation for neonatal hemochromatosis due to transient abnormal myelopoiesis with Down syndrome	case report and review of the literature. Pediatric Blood & Cancer 71: e31228, 2024.	Case report
235	Nakamura, Y., Shimada, I. S., Maroofian, R.他	小児科学	Biallelic null variants in PNPLA8 cause microcephaly by reducing the number of basal radial glia.	Brain 147, 3949–3967, 2024.	Case report
236	Okada, Y., Kanno, A., Sano, N.他	小児科学	Type 2 autoimmune pancreatitis diagnosed by aspiration cytology in a 12-year-old female patient.	Pediatrics International 66, DOI https://doi.org/10.1111/ped.15772, 2024.	Case report
237	Suzuki, Y., Kono, Y., Yada, Y.他	総合周産期母子医療センター	Correction: Neonatal respiratory support related to lung function abnormalities in school-age children with bronchopulmonary dysplasia.	J Perinatol 44(7): 1080–1085, 2024.	Original Article
238	Yamagishi, H., Osaka, H., Muramatsu, K.他	小児科学	Perampanel reduces seizure frequency in patients with developmental and epileptic encephalopathy for a long term.	Sci Rep:14(1):30051, 2024 Dec 3. doi: 10.1038/s41598-024-82014-5. PMID: 39627316; PMCID: PMC11615398.	Original Article
239	Yamagishi, H., Tamura, D., Yamazaki, M.他	小児科学	Clinical Evaluation of the Accuracy of the Panbio™ COVID-19/Flu A&B Rapid Panel	A Combination Antigen Rapid Diagnostic Test for the Omicron Variant and Influenza A Virus. Viral Immunol 37:317–321,2024. doi: 10.1089/vim.0039,2024.	Original Article
240	Yamagishi, H., Tamura, D., Morisawa, Y.他	小児科学	Remarkable proliferative ability of the Omicron variant in the nasal cavity compared to other SARS-CoV-2 variants.	Future Virol 19:239–247,2024. doi: 10.1080/17460794.2362100,2024.	Original Article
241	Yoshinari, H., Kawahara, Y., Nijima, H.他	小児科学	High Plasma Presepsin Levels in Children With Hemophagocytic Lymphohistiocytosis.	J Pediatr Hematol Oncol 46:e103–e106, 2024.	Original Article
242	Yoshino, M., Matsubara, D., Shinno, Y.他	小児科学	Influenza-Associated Intussusception: “You Too, Intussusception”.	Pediatr Infect Dis J. doi: 10.1097/INF.0000000000004590,2024 Oct 9.	Case report
243	Keita Terui, Kouji Nagata, Masaya Yamoto, et al	小児外科	Intraoperative surgical complications of open surgery for congenital diaphragmatic hernia: a multicenter, observational study in Japan.	Pediatric Surgery International. 2024 Aug;40:240	Original Article
244	Takanori Imai,Naoto Kato,Naoki Kanda,et al	総合診療内科	Risk of Urogenital Bacterial Infection with Sodium-Glucose Cotransporter-2 Inhibitors: A Retrospective Cohort Study Using a Claims Database	Diabetes Ther. 2024; 15(8): 1821–1830	Original Article
245	Takanori Imai,Hideki Hashimoto,Naoki Kanda,et.al	総合診療内科	Effect of calcium channel blockers on influenza incidence: a population-based retrospective cohort study using administrative claims data in Japan	BMJ Open.2024;14(10):e084092	Original Article
246	Haruhiko Ishioka,Naoki Fujii,Taichi Tajima,et al	感染症科	Cumulative antibiogram preparation among hospitals participating in the Japan Surveillance for Infection Prevention and Healthcare Epidemiology	J Infect Chemother. 2024; 30(5): 459–462	Original Article
247	Haruhiko Ishioka,Aniruddha Ghose,Hugh W. Kingston,et al	感染症科	The predictive capacity of biomarkers for clinical pulmonary oedema in patients with severe falciparum malaria is low: a prospective observational study	Malar J. 2024; 23(1): 320	Original Article
248	Nayuta Seto, Takahiko Fukuchi,Masayuki Kawakami,et al	感染症科	Seronegative HIV-1 infection in a Japanese man presenting with Pneumocystis pneumonia: analysis of long-term antibody response and literature review	J Infect Chemother. 2024; 30(9): 917–921	Case report
249	Takayuki Suzuki,Shinya Watanabe S, Nobu Seto,et al	感染症科	Draft Genome Sequence of Nocardia sp. strain JMUB6875 Isolated from a Patient with Disseminated nocardiosis	Microbiol Resour Announc. 2024; 13(11): e0073524	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
250	Sadatomo,A	消化器一般移植外科	中直腸動脈が内腸骨動脈より直接分岐した症例におけるロボット支援した直腸癌手術.	自治医科大学紀要46:37-40, 2024	Original Article
251	Matsumoto,S.	消化器一般移植外科	Laparoscopic distal gastrectomy skill evaluation from video: a new artificial intelligence-based instrument identification system.	Sci. Rep.14(1):12432.doi:10.1038/s41598-024-63388-y.2024 May.	Original Article
252	Ota,G.	消化器一般移植外科	Evaluation of scissor glide characteristics through surgeons' subjective assessment: The application of nitriding in scissor hardening tests.	Cureus 16(1):e52402. doi: 10.7759/cureus.52402.eCollection 2024 Jan.	Original Article
253	Shinohara,S.	消化器一般移植外科	Comparing mental strain and subjective sensations with and without a wearable chair while performing simulated suturing tasks.	Cureus 16(9):e69775.doi: 10.7759/cureus.69775.eCollection 2024 Sep.	Original Article
～					

計253 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 1. 自治医科大学における人を対象とする生命科学・医学的研究に関する規定 2. 人を対象とする生命科学・医学的研究に関する倫理審査委員会手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 1. 学校法人自治医科大学利益相反委員会内規 2. 学校法人自治医科大学利益相反マネジメント・ポリシー 3. 学校法人自治医科大学における人を対象とする医学的研究の実施に係る利益相反ポリシー 4. 学校法人自治医科大学における臨床研究等に係る利益相反についての手順書	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
-----------------------	-------

・研修の主な内容

令和6年7月3日（水）に自治医科大学研究倫理講習会として集合形式で開催し、後日、totaraを用いてweb形式の動画視聴の講習を実施した。

（注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・新専門医制度の19の基本領域すべてにおいて専門研修プログラムを整備しており、全領域で基本領域の専門医を取得することができる。
・サブスペシャリティ領域について各領域で専門研修プログラムを整備しており、多種のサブスペシャリティ研修と専門医の取得が可能である。
・基本領域、サブスペシャリティ領域の円滑な研修のため、卒後臨床研修センターを中心に院内に情報共有・通知を行っている。
・各基本領域において初期研修医から後期研修医を主な対象とし、最新の医学的知識習得を目的としたセミナーを定期的で開催している。
・メディカルシミュレーションセンターを併設しており、模型を用いた内視鏡、超音波診断、外科手術の臨床手技習得のためのトレーニングを24時間行うことが可能である。
・併設する附属図書館より最新の文献収集、電子教科書の利用などを24時間行うことができる。
・主要な派遣先の病院において、一定の資格（経験年数、業績、専門医・指導医の有無）を有する指導医を臨床教授に任用し（地域臨床教育センター）、附属病院と連携しながら後期研修の指導を行っている。
・社会人大学院制度により専門研修と並行し研究を行い医学博士を取得することが可能である。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	186人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松村 正巳	内科（総合診療内科）	科長	39年	
森下 義幸	内科（腎臓）	科長	29年	
神田 善伸	内科（血液）	科長	34年	
矢作 直也	内科（内分泌代謝）	科長	31年	
大澤 英之	内科（臨床腫瘍）	科長	27年	
畠山 修司	内科（感染症）	科長	29年	
清水 敦	内科（緩和ケア）	科長	35年	
荻尾 七臣	循環器科	科長	38年	
矢野 智則	消化器科	科長	29年	

前門戸 任	呼吸器科	科長	36年	
藤本 茂	神経内科	科長	31年	
佐藤 浩二郎	アレルギー科	科長	30年	
佐藤 浩二郎	リウマチ科	科長	30年	
小宮根 真弓	皮膚科	科長	37年	
森 壘	画像診断科	科長	28年	
白井 克幸	放射線治療科	科長	22年	
松木 充	小児画像診断部	科長	34年	
須田 史朗	精神科	科長	29年	
柳橋 達彦	精神科 (子どもの心の診療科)	科長	23年	
田島 敏広	小児科	科長	39年	
山口 博紀	外科 (消化器)	科長	32年	
岩見 大基	外科 (腎臓)	科長	25年	
佐久間 康成	外科 (移植)	科長	33年	
佐久間 康成	外科 (小児移植)	科長	33年	
原尾 美智子	外科 (乳腺)	科長	26年	
川人 宏次	心臓血管外科	科長	39年	
岡 徳彦	心臓血管外科 (小児・先天性心臓血管外科)	科長	28年	
坪地 宏嘉	呼吸器外科	科長	30年	
素輪 善弘	形成外科	科長	22年	
吉村 浩太郎	形成外科 (小児形成外科)	科長	40年	
素輪 善弘	美容外科	科長	22年	
照井 慶太	小児外科	科長	27年	

國井 尚人	脳神経外科	科長	22年	
三輪 点	脳神経外科 (小児脳神経外科)	科長	24年	
竹下 克志	整形外科	科長	38年	
渡邊 英明	整形外科 (小児整形外科)	科長	32年	
藤原 寛行	産科	科長	35年	
藤原 寛行	婦人科	科長	35年	
藤村 哲也	泌尿器科	科長	30年	
守屋 仁彦	泌尿器科 (小児泌尿器科)	科長	34年	
伊藤 真人	耳鼻咽喉科	科長	38年	
伊藤 真人	耳鼻咽喉科 (小児耳鼻咽喉科)	科長	38年	
蕪城 俊克	眼科	科長	33年	
竹内 護	麻酔科	科長	40年	
竹内 護	小児手術・集中治療部	科長	40年	
間藤 卓	救急科	科長	38年	
森田 光哉	リハビリテーション科	科長	39年	
渡邊 英明	小児リハビリテーション部	科長	32年	
福嶋 敬宜	病理診断科	科長	35年	
野口 忠秀	歯科口腔外科	科長	35年	
野口 忠秀	歯科口腔外科 (小児歯科口腔外科)	科長	35年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数 回答なし
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数 回答なし
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数 回答なし

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 川合 謙介	
管理担当者氏名	病院事務部長 桑原 健	

			保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	・電子カルテシステムサーバー ・病歴室 ・各診療科 ・フィルム管理室	平成18年度より電子カルテによる運用を行っている。 電子カルテ導入前の記録については、病歴室で保管し、診療情報管理室で管理している。 診療録等の持ち出しについては、原則禁止としている。やむを得ず持ち出す場合は、別途規程に定めている。 (『自治医科大学附属病院の患者等の個人情報保護に関する規程』、『自治医科大学附属病院情報システム利用規程』等)
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	PCまたは紙媒体で保管
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質向上・安全推進センター	PCまたは紙媒体で保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質向上・安全推進センター	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質向上・安全推進センター	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質向上・安全推進センター	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	PCまたは紙媒体で保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療の質向上・安全推進センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療の質向上・安全推進センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	用度課及び臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療の質向上・安全推進センター	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療の質向上・安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療の質向上・安全推進センター
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療の質向上・安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質向上・安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療の質向上・安全推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療の質向上・安全推進センター
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質向上・安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質向上・安全推進センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質向上・安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療の質向上・安全推進センター
		職員研修の実施状況	医療の質向上・安全推進センター、感染制御部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 川合 謙介	
閲覧担当者氏名	病院事務部長 桑原 健	
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室	
閲覧の手続の概要		
・申請内容により個別対応		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ・ 医療安全管理に関する基本的な考え方 ・ 医療の質向上・安全推進委員その他院内組織に関する基本的事項 ・ 医療安全管理のための講習会・研修会に関する基本方針 ・ インシデント報告に関する基本方針 ・ 重大事故発生時の対応	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： ・ 医療事故及びインシデントの予防対策の検討及び推進に関すること ・ 発生した医療事故等の対応方法に関すること ・ 医療安全管理指針及びリスクマネジメントマニュアルの策定及び変更に関すること ・ 医療安全管理に関する職員研修の計画の策定、実施及び評価に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年22回
・ 研修の内容（すべて）： ・ 全職員対象医療安全講習会 ・ 新入職者対象医療安全講習会 ・ 研修医インシデントレポートについての演習 ・ 研修医対象ポンプ・危険薬研修 ・ 多職種合同医療安全研修会 ・ 新人看護師対象医療安全研修会 ・ 中心静脈カテーテル挿入技術認定研修会 ・ 研修医対象医療安全セミナー ・ BLS研修 ・ 新人医療技術系職員・事務職員対象医療安全研修	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 講習会を開催（改善策などを周知教育する） ・ QSマネージャー会議にて各部門に周知 ・ ワーキンググループで検討（気管切開、VTE予防対策、CV、MACT、急変時対応、IC、鎮静） ・ 部会で検討（医薬品安全管理・医療機器安全管理）	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
- 指針の主な内容： - 院内感染対策に関する基本的な考え方 - 院内感染対策に関連する委員会に関する基本的事項 - 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 - 感染症の発生状況の報告とそれに対する対応に関する基本方針 - 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 - その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
- 活動の主な内容： - 病院長が積極的に感染対策に関わり、院内感染対策委員会、ICT、AST、感染制御部が中心となって、すべての職員に対して組織的な対応と教育・啓発活動をする。 - 院内感染対策委員会で検討した事項は病院長に諮問した上で日常業務化する。 - 感染制御部長は ICT、AST および感染制御部を統括する。 - 感染管理認定看護師は感染管理リンクスタッフ勉強会を主催、統括する。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年41回
- 研修の内容（すべて）： - 全職員対象医療安全・感染対策合同講習会：2回 【動画配信・e-learning受講】 - 全職員対象感染対策講習会：1回 【集合／動画配信・e-learning受講】 - 新入職員対象オリエンテーション：3回（全職種向け：1回／看護師向け：2回） - 新入臨床研修医向け実習（事前演習有）：1回 - 中途採用者・復職者対象オリエンテーション 【動画配信・e-learning受講（常時）】 - 看護補助員向け中途採用者研修（依頼に基づき随時実施）：16回 - リンクスタッフ（所属部署の感染管理担当者）勉強会：4回 - 部署別個別研修会（依頼に基づき随時実施・おおるり分教室）：1回 - 第一種感染症医療機関個人防護具着脱訓練（主任看護師対象）：1回 - N95マスク定量フィットテスト（主任看護師・看護スタッフ・臨床検査技師対象）：6回 - 清掃委託業者・従業者向けの感染防止対策研修：6回 （栃木ビル商事：2回／クリーン工房：1回／㈱ダスキンヘルスケア：3回）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
- 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） - その他の改善のための方策の主な内容： - 専従の臨床検査技師が、令和5年度より感染制御部に常駐するようになり、細菌検査システムにおいて、検査データ（微生物データ）を毎営業日確認し、状況を把握している。また、耐性菌検出状況の集計・分析を行い、月例の院内感染対策委員会においてフィードバックしている。 - すべての職員に配付した感染防止対策マニュアル（ポケット版）にアウトブレイク対応の手順が明記されている。また、「アウトブレイクの定義」を令和4年2月に新たに作成し院内感染対策指針、及び感染防止対策マニュアル（ポケット版）に掲載した。 - 電子カルテ上に、検査結果から経路別予防策の必要な患者に対する経路別のタグが、原則として自動的に掲載される。また、病棟毎の感染症マップでは、経路別予防策の必要な患者が一覧できる。 - 医療従事者の針刺し切創・粘膜曝露について感染症科の協力を得て常時対応している。 - 独立した感染症科が、組織横断的なコンサルテーション診療による適正抗菌療法を行っている。 - 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を組織し、継続的に活動している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 50 回
- 研修の主な内容： - 新人看護職員研修会オリエンテーション 薬剤部の活動について - 医療の質向上・安全推進センター（QSセンター）専従薬剤師による新人看護職員研修 危険薬について、医薬品の使用に関わる計算演習など - 新人看護師の薬剤部における実地研修 薬剤部の業務、役割について - レジデントオリエンテーション 薬の処方および麻薬の取り扱いについて、注射薬について（医療安全） - 病棟担当薬剤師による危険薬説明会（主に担当病棟の新人看護師対象） 特に注意の必要な危険薬、配属病棟で使用頻度の高い危険薬を中心とした、危険薬の取り扱い等について - 全職員対象の医療安全講習会 医薬品の安全・適正使用のために など	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	- 手順書の作成（有・無） - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： - 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂 - 医薬品の安全使用のための業務手順書に基づくチェックリストの作成 - チェックリストによる実施状況の確認（手順書の遵守状況確認） - 病棟以外の定数配置薬の管理状況の薬剤師による定期的な確認の実施 - 院内巡視による医薬品の管理状況等安全使用に関わる状況の確認 - 私立医科大学病院医療安全相互ラウンドの実施 - 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施 - 未承認等医薬品の使用の適否審査の実施 - 未承認等医薬品の使用状況の把握・周知 - 医薬品の安全使用にあたり重要な情報の収集・周知 - 院内で発生した副作用報告を薬剤部とQSセンターが連携して収集して薬剤部で一元管理し、収集した院内及び院外の副作用情報をDIニュースとして医師・看護師等に周知
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	- 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： - 国内未承認薬：25件 - 海外承認：Daraprim、Sulfadiazine、Omegavenなど - 院内製剤：ベクロメタゾン散・カプセル、セレン内服液、 円形脱毛症治療用SADBE（squaric acid dibutylester）、 眼科用エチレンジアミン四酢酸（EDTA）液など - その他：丸山ワクチン、S-アデノシルメチオニン - 禁忌薬の使用：5件

併用禁忌薬剤の使用、妊婦禁忌薬剤の妊婦への使用、
重度腎機能障害患者へ禁忌薬剤の使用など

・ 適応外使用：129件

静注用KCL製剤の高濃度での使用

免疫グロブリン製剤の免疫性神経疾患への使用

抗がん薬の適応・用法用量の承認外での使用

集中治療領域における深鎮静へのラボナール注射用等麻酔薬の使用

メサペイン錠の他オピオイド製剤との併用

小児適応の無い製剤の小児への使用（抗がん薬、リンヴォック錠など）
など

・ その他の改善のための方策の主な内容：

・ 医療の質向上・安全推進センター（QSセンター）への専従薬剤師配置によるQSセンターと薬剤部の連携

・ 薬剤部長（医師）及び医薬品安全管理責任者（薬剤師）はQSセンターと兼務

・ 医薬品の安全使用に関わる運用変更について、QS委員会への報告、QSマネージャー会議を通して全職員への周知

・ QSセンターカンファレンス（週1回）において医薬品に関するインシデントに関わる情報の収集、改善対策の検討・提案・実施

・ QSセンターの院内巡視に同行して部署での医薬品管理状況等を確認し、問題点の指摘、改善対策の検討・提案

・ 医療安全講演会を通して医薬品の安全管理・安全使用に関わる教育、情報・対策等の周知

・ 医薬品安全管理部会における医薬品の安全使用のための検討

・ 医薬品の安全使用に関する検討事項について、医薬品安全管理部会で改善対策を検討し、QS委員会に改善対策案を提示して承認取得後、QSマネージャー会議を通して全職員への周知

・ インシデントレポートを通して得た事例を、必要に応じて日本医療機能評価機構へ症例報告

・ PMDAメディナビおよび日本医療機能評価機構等からの医療安全情報の収集、製薬会社等からの医薬品安全情報の収集を行い、重要な情報はQSマネージャー会議を通して全職員へ周知

・ 未承認等の医薬品に関する情報のQS委員会への報告、QSマネージャー会議を通して全職員への周知

・ 医薬品情報室でPMDAメディナビ等から収集した医薬品の安全使用に関わる情報を、病棟担当薬剤師を通して担当病棟の関係者に周知

など

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 167 回
・ 研修の主な内容： ・ 新規医療機器導入時の取り扱い説明・研修 ・ 人工呼吸器・補助循環装置・AED・CHDF装置等安全使用のための研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有)・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器（AED含む）・閉鎖式保育器・CTエックス線装置・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置、その他保守契約締結機器の保守点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ 肺動脈狭窄に対するステント使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 医療安全情報・PMDA・メーカーからの情報収集 ・ インシデント事案の分析・検討し、現場へフィードバックを行う ・ 定期的に広報誌を発行し現場への周知を行う	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療の質向上・安全推進センター、医療の質向上・安全推進委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、インフォームドコンセント管理責任者、臨床感染症センター、医療放射線安全推進センター等を統括する。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (13名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ・ 医薬品安全管理責任者の指示の下、薬剤部医薬品情報室担当者により医薬品に関する安全性情報の収集・整理・院内職員への周知が行われ、病棟担当薬剤師からも担当病棟への情報提供を行っている。 ・ PMDA メディナビおよび日本医療機能評価機構等からの医療安全情報、製薬会社等からの医薬品安全情報等を利用して定期的に行っている情報収集・整理・周知の他、臨時で行う緊急性のある情報提供では、薬剤部医薬品情報室担当者と連携し、院内メールや院内ポータルサイト、紙面等を適切に利用して情報の周知を行っている。 ・ 医薬品の安全使用に関わる運用変更について、QS 委員会へ報告し、QS マネージャー会議を通して全職員への周知を行っている。 ・ QS マネージャー会議において、QS センターの専従薬剤師と連携して医薬品の安全性に関わる情報を報告し、全職員に周知している。 ・ 院内で発生した副作用報告を薬剤部と QS センターが連携して収集し、薬剤部医薬品情報室で一元管理している。また、収集した院内及び院外の副作用情報を DI ニュースとして院内ポータルサイトに掲載している。さらに、DI ニュースの内容については、病棟担当薬剤師等を通じて担当病棟の医師・看護師等にも周知している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ・ 未承認薬・医薬品の適応外使用および禁忌に該当する使用について、QS センターと薬剤部医薬品情報室が連携して対応している。QS センターで申請を受け付け、QS センターの専従薬剤師及び事務員が書式・申請内容・同意取得状況等の確認を行った後、薬剤部医薬品情報室の薬剤師が事前評価を行い、QS センターに情報提供し、QS センター管轄下の未承認新規・適応外等医薬品評価委員	

会で審査を行っている。なお、未承認等の医薬品の使用に係る審査・経過報告等の情報は QS センターで管理しており、審査結果は、QS 委員会へ報告し、QS マネージャー会議を通して全職員への周知等を行っている。 ・医薬品の適応外使用および禁忌に該当する使用については、高リスク・中リスク・低リスクの 3 段階にリスク分類を行い、リスク分類により説明・同意取得の方法を設定している。また、使用条件や報告条件を設定し、報告書等により経過の把握を行っている。	
・担当者の指名の有無 (有)・無) ・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属：QS センター ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属：QS センター ， 職種 事務員) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・医療の担い手が説明を行う際の実施者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 毎月の IC 欄記載率、医療者側同席基準順守率、説明同意書の病院推奨様式使用率の集計に基づいて、目標値である 80%よりも低い診療科に対して個別に、IC 欄の活用等の依頼を行っている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 責任者の統括のもと診療録が適切に記載されているかを確認するため、定期的に質的監査及び量的監査を実施している。監査結果は診療科長あてにフィードバックしている。診療録の IC 記載率が基準以下の診療科に対しては、IC 責任者より診療科長あてメールにて連絡している。質的監査については、改善報告書の提出を義務付けている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無

・ 所属職員：専従（10）名、専任（2）名、兼任（17）名

うち医師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（10）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名

うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（1）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・ 活動の主な内容：

・ 医療安全推進に関すること

・ 有害事象発生時の支援に関すること

・ 臨床倫理に関すること

・ インフォームドコンセントに関すること

・ 特定診療に関すること

・ 高難度新規医療技術に関すること

・ 未承認新規医薬品・医療機器に関すること

・ 適応外医療機器等に関すること

・ 渉外に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（50 件）、及び許可件数（49 件）

・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒ 有・☐ 無）

・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒ 有・☐ 無）

・ 活動の主な内容：

・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「高難度新規医療技術の導入を検討するに当たっての基本的な考え方」やガイドライン等を参考に実施する

・ 審査と実施状況の監査・モニタリングを行う

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒ 有・☐ 無）

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒ 有・☐ 無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（168 件）、及び許可件数（164 件）

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒ 有・☐ 無）

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無

(☒ 有 ☐ 無)

・活動の主な内容：

- ・未承認新規医薬品等の使用に関する審査を行う。
- ・未承認新規医薬品等に関する監査、モニタリングを行う。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (☒ 有 ☐ 無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (☒ 有 ☐ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 786 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 318 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・全死亡症例について、問題症例はなかったか確認する。
 - ・レベル 3B 以上の事例について検討を行う。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り (☒ 有 (病院名：藤田医科大学病院) ・無)
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (☒ 有 (病院名：藤田医科大学病院) ・無)
- ・技術的助言の実施状況

注射薬臨時オーダーの一施用調剤につきまして、現在準備中とのことですが、なるべく早期の対応が望ましい。それまでの間についても、病棟配置薬使用後に薬剤師が使用状況を確認できる体制が望ましい。

→来年度中には、薬剤師が注射薬臨時オーダーの一施用調剤を全面的に行う体制を整える予定としています。病棟担当薬剤師が、臨時注射薬の使用状況を確認する体制についても検討いたします。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者サポートセンター 相談窓口

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

- ・ 全職員対象医療安全講習会
- ・ 新入職者対象医療安全講習会
- ・ 研修医インシデントレポートについての演習
- ・ 研修医対象ポンプ・危険薬研修
- ・ 多職種合同医療安全研修会
- ・ 新人看護師対象医療安全研修会
- ・ 中心静脈カテーテル挿入技術認定研修会
- ・ 研修医対象医療安全セミナー
- ・ BLS 研修
- ・ 新人医療技術系職員・事務職員対象医療安全研修

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

管理者 (川合 謙介)

令和7年2月3日

2024年度特定機能病院管理者研修 (日本医療機能評価機構主催) 受講

医療安全管理責任者 (今井 靖)

令和6年11月26日

2024年度特定機能病院管理者研修 (日本医療機能評価機構主催) 受講

医薬品安全管理責任者 (今井 靖)

令和6年11月26日

2024年度特定機能病院管理者研修 (日本医療機能評価機構主催) 受講

医療機器安全管理責任者 (川人 宏次)

令和6年12月12日

2024年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

医療放射線安全管理責任者（森 塁）

令和6年11月26日

2024年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価【一般病院3】

訪問審査受審日：2021年11月29日～12月1日

確認審査受審日：2023年4月26日

改善審査受審日：2024年8月29日

再審査受審（書面審査）：2025年3月

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

当院ホームページに公表している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

本審査及び再審査でC評価を受けた下記の項目について、継続的な改善活動に取り組んでいる。

- （1）SSIサーベイランスの対象拡大
- （2）臨床指標を活用した医療の質向上活動
- （3）高難度新規医療技術等の実施後確認および医薬品の適応外使用の管理強化
- （4）全職員を対象とした定期的なBLS訓練の実施と受講者の把握
- （5）薬剤師による処方鑑査の徹底
- （6）読影率の向上

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 ・ 人格、識見ともに優れ、かつ、教育、診療等においても指導力を発揮し得る能力を有すること。 ・ 臨床医学系又は基礎医学系の大学教授（これに相当する職を含む。）の経歴を有し、かつ、医師の資格を有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有・ ☐ 無 ） ・ 公表の方法 大学HPにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ ☒ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有 ☐ 無	
・ 合議体の主要な審議内容 病院運営に必要な組織、財務、診療、医療安全、教育研修、広報等に関すること ・ 審議の概要の従業者への周知状況 院内ポータルサイト、診療代表者会議にて周知 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
川合 謙介	○	医師	病院長
松村 正巳		医師	副病院長
讃井 将満		医師	副病院長
藤原 寛行		医師	副病院長
小池 創一		医師	副病院長
今井 靖		医師	副病院長
福田 順子		看護師	副病院長
川人 宏次		医師	病院長補佐
竹下 克志		医師	病院長補佐
西野 宏		医師	病院長補佐
荻尾 七臣		医師	病院長補佐
小坂 仁		医師	病院長補佐
坂東 政司		医師	病院長補佐
新保 昌久		医師	病院長補佐
笹沼 英紀		医師	病院長補佐
興梠 貴英		医師	病院長補佐
森 壱		医師	病院長補佐
間藤 尚子		医師	病院長補佐
桑原 健		事務職員	病院事務部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・**無** ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
 - ・ 附属病院の内部組織、職及び運営について「自治医科大学附属病院組織に関する規程」
 - ・ 病院執行部の組織及び運営について「病院執行部規程」
 - ・ 病院執行部の補佐及び診療運営について「自治医科大学附属病院運営組織に関する規程」
 - ・ 附属病院の予算執行権限について「学校法人自治医科大学決裁規程」

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

- 別紙「令和7年度 病院長、副病院長、病院長補佐の職務・役割分担及び執行部会議構成員」参照

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					☒ 有・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 附属病院における医療安全管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理等が管理者の下で適切に実施されているかどうかを確認し、必要に応じて是正措置を講ずるよう開設者及び管理者に意見を表明する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（☒ 有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（☒ 有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（☒ 有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有 ☒ 無） ・ 公表の方法： 病院ホームページに掲載						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	
尾澤 巖	地方独立行政 法人 栃木県 立がんセンタ ー 理事長／ センター長	○	医療機関の管理 者として、広い識 見その他の学術 経験を有し、医療 に係る安全管理 についての識見 を有するため	有 ☒ 無	1	
内山 聖	学校法人 悠 久 崇 徳 学 園 副理事長		医療機関の管理 者を歴任し、広い 識見を有し、医療 に係る安全管理 に関する識見を 有するため	有 ☒ 無	1	
山口 育子	認定 N P O 法 人 ささえあい 医療人権セン ター COML 理事長		患者団体の理事 長として、医療を 受ける立場から 当院へ意見でき る識見を有する ため	有 ☒ 無	2	
大槻 マミ 太郎	自治医科大学 副学長		学校法人自治医 科大学副学長と して医療に係る	有 ☒ 無	1	

			安全管理に関する識見を有するため		
齊藤 正昭	自治医科大学 附属さいたま 医療センター 医療安全管理 室 室長		附属さいたま医療センター医療安全管理室長として医療安全管理部門に所属し、医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ ☒ 無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
学校法人自治医科大学監事監査規程に基づき、監事による定期的な監査を実施。
- ・専門部署の設置の有無（ 有 ☒ 無 ）
- ・内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ）
- ・内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ）
- ・公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ・ 会議体の実施状況（ 年 2 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 2 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ） ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 周知の方法 院内及び大学ポータルサイトに掲載、QS マネジメントマニュアルに掲載

1 病院長の職務

- ・病院の長として院務を掌理し、所属職員を指揮監督する。（附属病院組織規則第4条第2項）

■ 病院長

- 川合 謙介

2 副病院長の職務

- ・病院長を補佐し、病院長に事故があるとき、又は病院長が欠けたときは、あらかじめ定めた順位によりその職務を代理する。（附属病院組織規則第4条の2第2項）
- ・任期は2年とし、再任されることができる。ただし、副病院長に就任した時の病院長の任期の終期を超えてその職務を行うことができない。（附属病院長及び副病院長の任期及び選考に関する規程第7条）

3 病院長補佐の職務

- ・病院の管理運営について病院長及び副病院長を補佐する。（附属病院組織に関する規程第2条第4項）
- ・委嘱期間は、委嘱日の属する年度の末日までとし、再委嘱の場合も同様とする。（附属病院組織に関する規程第2条第3項）

4 副病院長、病院長補佐の役割分担

※役割分担には、適宜追加修正等があり得る。

■ 副病院長（6名）

- 松村 正巳
 - ・診療円滑化
 - ・内科系診療活性化
 - ・入院診療運営部
- 讃井 将満
 - ・企画経営部、損益収支改善
 - ・集中治療部
- 藤原 寛行
 - ・将来計画
 - ・戦略的人員配置部
- 小池 創一
 - ・総合調整
 - ・病院広報
- 今井 靖
 - ・医療安全管理
 - ・薬剤部
- 福田 順子
 - ・運営支援部門
 - ・看護業務、診療円滑化、経営改善
 - ・看護部

■ 病院長補佐（11名）

- 川人 宏次
 - ・外科系診療活性化（外科学講座主任教授）
- 竹下 克志
 - ・外来診療運営部
 - ・医療機器管理
- 西野 宏
 - ・中央施設診療運営部
 - ・患者サポートセンター
 - ・メディカルサポートセンター
 - ・健診センター
 - ・負担軽減・処遇改善
- 荻尾 七臣
 - ・内科系診療活性化（内科学講座主任教授）
- 小坂 仁
 - ・とちぎ子ども医療センター
 - ・臨床研究
- 坂東 政司
 - ・臨床研究センター
- 新保 昌久
 - ・医療安全管理部
 - ・医療の質向上・安全推進センター
 - ・感染対策
- 笹沼 英紀
 - ・中央手術部、中央材料部
- 興梠 貴英
 - ・医療情報部
- 森 壱
 - ・医療放射線安全推進センター
 - ・画像診断、放射線治療
- 間藤 尚子
 - ・卒後臨床研修センター
 - ・診療円滑化、負担軽減・処遇改善

（注）氏名に____が付した者は新任。